

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	国語	科目	論理国語	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		「論理国語」(数研出版) 「入試頻出漢字・現代文重要語彙 TOP2500」(いっずな書店)					

学習の到達目標	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査(知識問題) TOP2500 課題確認テスト 等	定期考査(読解問題) レポート 等	授業内小テスト 授業の振り返り 等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません。
------------------	----------

※状況により変更する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	【思考】 関陽子 『野生の「クジラ」と人間の「鯨」』	・表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。	知技	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕
			思判表	「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕
			主体的	筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	【文化】 岡真理 『「文化が違う」とは何を意味するのか?』	・異文化理解の一助となるような考察をおこなう。	知技	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。〔(1)エ〕
思判表	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。〔A(1)イ〕 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕			
主体的	文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 資料図と資料文の内容と意見文とを積極的に比較検討し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。			
2 学期	【情報】 松田雄馬『人工知能はなぜ椅子に座れないのか?』	・筆者の問題提起と主張をとらえる。	知技	文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。〔(1)ウ〕 推論の仕方について理解を深め使っている。〔(2)ウ〕
			思判表	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。〔B(1)イ〕
			主体的	筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 関連する二つの文章を積極的に読み比べることで自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
	【環境】 今福龍太『エコロジーのミューズを求めて』	・段落ごとの論旨を的確に把握し、それを言語化する。	知技	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕
思判表	「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕			
主体	文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。			
3 学期	【社会】 小浜逸郎 『人はなぜ働かなくてはいけないのか?』	・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。	知技	推論の仕方について理解を深め使っている。〔(2)ウ〕
			思判表	「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。〔A(1)エ〕
			主体的	課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。

※状況により変更する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	国語	科目	文学国語	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		「文学国語」(数研出版) 「カラー版 新国語便覧」(第一学習社)					

学習の到達目標	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度や、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査(知識問題) 課題確認テスト  等	定期考査(読解問題) レポート  等	授業内小テスト 授業の振り返り  等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません。
------------------	----------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学 期	【平成の小説】 山田詠美 『ひよこの眼』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を三つの部分（時間）に分け、それぞれの部分（時間）はどこからどこまでかを確認する。</li> <li>・「私」は幹生の「目」をどのようにとらえていたか、その変化をまとめる。</li> <li>・「私」はどのような人物だと考えられるか、本文の出来事を踏まえてまとめる。</li> </ul>	知 技	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。[(1)イ]
			思 判 表	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。[B(1)イ]
			主 体 的	進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って説明しようとしている。
	【大正の小説】 梶井基次郎 『檸檬』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私」は「檸檬」をどのように感じているかを本文に沿ってまとめる。</li> <li>・「二銭や三銭のもの—とって贅沢なもの—美しいもの—とって無気力な私の触角にむしる媚びてくるもの。—そういったものが自然私を慰めるのだ」とは、どういうことかを説明する。</li> <li>・「第二のアイデア」からは、「私」のどのような願望がうかがえるかを説明する。</li> <li>・心の不可思議さについて、自分が経験したことを八百字程度で書く。</li> </ul>	知 技	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。[(2)イ]
			思 判 表	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。[B(1)カ]
			主 体 的	進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。
2・3 学 期	【明治時代の小説】 森鷗外 『舞姫』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。</li> <li>・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。</li> <li>・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。</li> <li>・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。</li> </ul>	知 技	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。[(2)イ]
			思 判 表	「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。[B(1)キ]
			主 体 的	『舞姫』と『普請中』の登場人物の人物像を粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	国語	科目	古典文学研究	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		改訂版「古典速読トレーニング 入門」(数研出版) 三訂版「古典速読トレーニング 基礎」(数研出版) 新国語便覧(第一学習社)、「完全マスター古典文法」(第一学習社) 古文単語330(いいずな書店)					

学習の到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
社会生活に必要な国語の知識や技能を幅広く身に付けており、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	深く共感したり豊かに想像したりする力を有しており、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高めている。自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 読書に親しんでいる。 言語文化へ深い関心を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査(知識問題) 課題確認テスト  等	定期考査(読解問題) レポート  等	授業内小テスト 授業の振り返り  等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません。
------------------	----------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学 期	【説話】 「続古事談」 「古今著聞集」	・説話から人物の特異な言動を読み取り、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	知 技	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)
	【随筆】 「榻鳴曉筆」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	思 判 表	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)
	【仮名草子】 「伊曾保物語」	・品詞の種類について、文語のきまりを再確認する。	主 体 的	・これからの学習に見通しをもって、日本固有の言語文化の背景についての興味・関心を深め、それを学習することについて理解を深めようとしている。
	【説話】 「古本説話集」	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。	知 技	・表現技法を理解し我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。(2)ウ)
2 学 期	【紀行】 「菅笠日記」	・自由な文体の随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	思 判 表	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)
	【物語】 「竹取物語」	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	主 体 的	・和歌の修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。 ・作品に表れている情景や心情を粘り強く読み取り、これまでの学習を生かして和歌を鑑賞しようとしている。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。
	【随筆】 「方丈記」	・作品の歴史的・文化的背景を理解する。	主 体 的	・和歌の修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。 ・作品に表れている情景や心情を粘り強く読み取り、これまでの学習を生かして和歌を鑑賞しようとしている。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。
	【説話】 「雑談記」 「唐物語」 【日記文学】 「建礼門院右京大夫集」 【連歌論】 「ささめごと」	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・これまで学習した日記文学との比較を通して、作者や文体の特性を理解する。	知 技	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ア) ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)イ)
3 学 期	【史伝】「世説新語」 【随筆】「慎思録」	・漢文の訓読のきまりを確認しながら、訓読技術を習得する。	思 判 表	・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(A(1)ア) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(A(1)イ)
	【説話】 「今物語」 「撰集抄」 【浮世草子】 「西鶴諸国ばなし」 【随筆】 「落栗物語」	・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。	知 技	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ア) ・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(2)イ)
	【史伝】 「説苑」 【思想】 「孟子」	・日本と中国の古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	思 判 表	・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(A(1)ア)
	【評論】 「源氏物語玉の小櫛」 【物語】 「うつほ物語」	・評論の読解を通して、日本古来のものの見方、考え方について理解を深める。	主 体 的	・故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。
3 学 期	【笑話】「笑林」 【漢詩】「縛鶏行」	・漢詩についてのきまりを再確認し、中国古典の中に流れる情緒や考え方を理解する。	知 技	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2)ウ)
	【漢詩】「縛鶏行」	・漢詩についてのきまりを再確認し、中国古典の中に流れる情緒や考え方を理解する。	思 判 表	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)
	・日本と中国の比較を通して、独自の文化について理解を深める。	主 体 的	・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。 ・作品に表れたものの見方・考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。	

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	国語	科目	日本語の表現	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		特になし					

学習の到達目標	<p>(1) 日本語表現の知識や技能を身に付ける。</p> <p>(2) 自分の思いや考えを様々な手法で表現することができる。</p> <p>(3) 他者の作品を正しく批評し自分の表現に生かすことができる。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
・言葉の働きや可能性について理解している。	・言葉を相手に効果的に伝えることができる。	・与えられた課題に積極的に取り組もうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
・定期テスト 等	・定期テスト ・各課題の成果物 等	・授業への取り組み姿勢 等

教科担当からの 補足・連絡	<p>書けるために必要な要件は「よき人間性」ではありません。「書くための方法論」です。ただし、すぐれた文章が書けるようになるなら、そのことが「人間性」を事後的に引き上げると知ってください。</p>
------------------	--

単元	学習内容	観点別評価規準	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の働きを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認識の窓」としての言葉の働きを理解する。</li> </ul>	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>【定期テスト】</li> <li>・学習した各分野の知識事項を問う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リレー作文</li> <li>・詩の創作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた一文が次の一文を規定する、論理の連鎖について理解する。</li> <li>・指定された一行に続けて、詩句を連ねていく中で、とある発見に至る瞬間を体験する。</li> </ul>	思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>【作品評価】</li> <li>・作品のクオリティ。</li> <li>・批評の的確さ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセイを書く</li> <li>・短歌に挑戦する</li> <li>・掌編小説に挑戦する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常のちょっとした体験に意味づけすることで、それはエッセイになるのだということ学ぶ。</li> <li>・コンテストに応募するための短歌を書く。</li> <li>・写真や映像などの素材をもとに、小説世界を立ち上げ、人物を動かしていく。</li> </ul>	主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休まずに授業に参加しているか。</li> <li>・成果物を期限内に提出しているか。</li> <li>・各活動に能動的に取り組んでいるか。</li> </ul>

※以上、あくまでも目安であって、学習内容が変わる場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	公民	科目	政治・経済	学年	3	単位数	3
使用教科書 副教材		「詳細政治・経済」(実教出版) 「政治・経済資料2026」(とうほう)					

学習の到達目標	政治・経済の基礎知識を習得し、政治・経済に関するニュースやデータを分析し、多角的に考察する力を育み、法律や政策の意義・課題を考え、社会問題に対して論理的に意見を述べる力を養い、民主主義の担い手として主体的に社会と関わり、持続可能な未来の実現に向けて考え行動できるようにする。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
政治や経済の基本的な仕組みや概念を理解し、重要な用語や制度について理解している。	社会の課題について多角的に考察し、根拠に基づいて論理的な判断を行うとともに、データや資料を活用しながら自分の考えを的確に表現している。	社会の動向に関心を持ち、学んだことを自分の生活や将来の行動につなげようとする姿勢を持ちながら、他者と協力し主体的に学習に取り組んでいる。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 授業内小テスト 等	定期考査 授業内小テスト 等	レポート グループワーク 等

教科担当からの 補足・連絡	常に新聞やニュースを見る習慣をつける。
------------------	---------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	現代日本の政治 第3章日本の政治機構  第4章現代日本の政治	1 立法 2 行政 3 司法 4 地方自治	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の政治機構の仕組みや役割を理解している。</li> <li>● 三権分立や地方自治の原則を理解し、それぞれの意義や関係性を理解している。</li> <li>● 現代日本の政治課題について、その背景や特徴を理解している。</li> <li>● 憲法や法律の基本的な役割を理解し、実際の政治制度との関連を理解している。</li> </ul>
		1 戦後政治の歩み 2 選挙制度 3 政治参加と世論		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の政治機構の仕組みや機能について、資料やデータをもとに多角的に分析し、自分の考えを論理的に表現している。</li> <li>● 現代日本の政治課題について、多様な視点を考慮しながら、その問題点や解決策について自分の意見を表現している。</li> <li>● 日本の政治制度と諸外国の政治制度を比較し、類似点や相違点を踏まえて、日本の特徴や課題を考察し、表現している。</li> <li>● 選挙や政策決定の過程について、具体的な事例を用いて説明し、それが民主主義にどのように関わるかを考察し、表現している。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代日本の政治に関心を持ち、選挙や政策、政治制度の変化について主体的に調べようとする姿勢がある。</li> <li>● 授業内の討論や意見交換に積極的に参加し、多様な考えを尊重しながら自分の意見を深めることができる。</li> <li>● 新聞やニュースを活用し、最新の政治動向について自ら情報収集し、学びに生かそうとする姿勢を持っている。</li> <li>● 学んだことを日常生活や社会参加に結びつけ、主権者としての自覚を持ちながら、選挙や政治参加の意義について考えようとする態度が見られる。</li> </ul>
2 学期	現代日本の経済 第1章経済社会の変容  第2章現代経済のしくみ  第3章現代経済と福祉の向上	1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産業構造の変化やグローバル化など、現代の経済社会の変容について理解している。</li> <li>● 市場経済の基本的なしくみを理解している。</li> <li>● 財政・金融・社会保障制度の役割や仕組みを理解している。</li> <li>● 経済成長・景気変動・雇用・格差・少子高齢化など、日本経済が直面する課題について理解している。</li> </ul>
		1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済社会の変化が国民生活や企業活動に与える影響を、多様な視点から分析し、自分の考えを論理的に表現している。</li> <li>● 現代経済のしくみについて、統計データやグラフを活用しながら、経済の動向や課題を考察し、表現している。</li> <li>● 財政・金融政策や社会保障の意義と課題を踏まえ、より良い制度のあり方について自分の意見を表現している。</li> <li>● 日本の経済政策や国際経済の動向をふまえ、日本の経済の強みや課題について多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
		1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業 3 国民の暮らし 4 環境保全と公害防止 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代日本の経済に関心を持ち、経済ニュースやデータに対して主体的に情報収集し、学習に生かそうとする姿勢がある。</li> <li>● 授業の議論やグループワークに積極的に参加し、多様な視点を尊重しながら自分の考えを深めようとする態度が見られる。</li> <li>● 家計管理や金融リテラシーの学習を通じて、自らの生活や将来に経済知識を応用しようとする態度が見られる。</li> </ul>
3 学期	グローバル化する国際社会の諸課題 第2章現代の国際経済	1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と世界金融	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代の国際経済の基本的な仕組みを理解している。</li> <li>● グローバル化の進展とそれが国際経済に与える影響について理解している。</li> <li>● 国際機関の役割と目的について理解している。</li> <li>● 経済の自由化、貿易協定とその影響を理解し、国際経済の動向について理解している。</li> </ul>
		5 地球環境とエネルギー 6 経済協力と人間開発の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル化が進展する中で、各国の経済政策や貿易関係が社会や環境に与える影響を多角的に分析して表現している。</li> <li>● 貿易摩擦、資本移動、労働力移動などの国際経済における問題を論理的に考察し、解決策について自分の意見を表現している。</li> <li>● 統計データや国際経済に関する事例を用いて、現代の国際経済の問題を分析し、視野を広げた視点で考察し、表現している。</li> <li>● グローバル経済の動向とその影響について、異なる立場や国の視点を考慮し、意見を整理して表現している。</li> </ul>

			<p style="text-align: center;">主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代の国際経済に関心を持ち、国際経済関連のニュースやデータを積極的に調べ、学習に生かそうとする姿勢がある。</li> <li>● 授業外でも、国際経済の動向に関して自ら情報収集を行い、学びを深める意欲を示している。</li> <li>● グループワークやディスカッションに積極的に参加し、他者と異なる視点を尊重しながら、共同で考えを深めようとしている。</li> <li>● グローバルな経済問題を「自分ごと」として捉え、将来の経済活動にどう関わるべきかを考える態度を持っている。</li> </ul>
--	--	--	---

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史探究	学年	3	単位数	4
使用教科書 副教材		日本史探究『詳説日本史』					

学習の到達目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期	文化の始まり 農耕社会の成立 古墳文化の展開  飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容 摂関政治 地方政治の展開と武士 院政の始まり 院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭	日本の旧石器時代から古墳時代までの社会の変化を、考古学的な発見に基づいて理解し、原始社会の特徴を考察する。 原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。 日本の飛鳥時代から戦国時代までの社会の変化を、政治、経済、社会、文化の視点から捉え、各時代の特色と変化の要因を理解する。 古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。 中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	知技	日本の旧石器時代から戦国時代までの社会の変化を多様な視点を踏まえて理解し、各時代の特色と変化の要因を捉えている。各時代の特色を示した諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。
			思判表	日本の旧石器時代から戦国時代までの社会の変化を多様な視点を踏まえて考察し、根拠を示して表現している。
			主体的	日本の旧石器時代から戦国時代までの社会の変化について多面的・多角的に考察し、表現している。グループワークやディスカッションに積極的に参加し、多様な考えを尊重しながら自分の意見を深めようとしている。
2学期	織豊政権 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 幕政の改革 幕府の衰退と近代への道  開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立 日清・日露戦争と国際関係 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 近代産業の発展 近代文化の発達 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭	日本の安土・桃山時代から幕末までの社会の変化を、政治、経済、社会、文化の視点から捉え、各時代の特色と変化の要因を理解する。 資料から適切に読み取った情報をもとに、近世の特色についての仮説を表現して展望する。 日本の幕末から軍部の台頭までの社会の変化を、政治、経済、社会、文化の視点から捉え、各時代の特色と変化の要因を理解する。 近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の歴史について仮説を表現して展望する。	知技	日本の安土・桃山時代から昭和時代前期までの社会の変化を多様な視点を踏まえて理解し、各時代の特色と変化の要因を捉えている。各時代の特色を示した諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。
			思判表	日本の安土・桃山時代から昭和時代前期までの社会の変化を多様な視点を踏まえて考察し、根拠を示して表現している。
			主体的	日本の安土・桃山時代から昭和時代前期までの社会の変化について多面的・多角的に考察し、表現している。グループワークやディスカッションに積極的に参加し、多様な考えを尊重しながら自分の意見を深めようとしている。
3学期	第二次世界大戦 占領と改革 冷戦の開始と講和 55年体制 経済復興から高度経済成長へ 経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の変容	第二次世界大戦期から戦後の冷戦までの社会の変化を、政治、経済、社会、文化の視点から捉え、各時代の特色と変化の要因を理解する。現代社会へのつながりを意識して考察することを旨とする。 事例を参考に、自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。	知技	日本の昭和時代前期から現代までの社会の変化を多様な視点を踏まえて理解し、各時代の特色と変化の要因を捉えている。各時代の特色を示した諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を理解している。
			思判表	第二次世界大戦期から戦後の冷戦までの社会の変化を多様な視点を踏まえて考察し、根拠を示して表現している。諸資料と、既習知識と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。
			主体的	第二次世界大戦期から戦後の冷戦までの社会の変化について多面的・多角的に考察し、表現している。自ら主題を的確に設定し、資料を適切に解釈したうえで複数の解釈を比較・検討・選択し、十分な論理展開で叙述・表現している。グループワークやディスカッションに積極的に参加し、他者と異なる視点を尊重しながら、共同で考えを深めようとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	地歴	科目	世界史 探究	学年	3	単位数	3
使用教科書 副教材		詳説世界史（山川出版） グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）					

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、世界の成り立ちを大きな枠組みを捉えると同時に諸地域の特色を理解する。課題を追究したり解決したりする活動を通して、考察したことを効果的に説明したり表現し、現代社会の問題について主体的に考える。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界史の大きな流れや各地域の歴史的特徴、相互の関わりを理解する。 歴史用語や概念を習得し、歴史的な事象を説明できるようになる。 歴史の多様性を認識し、異なる文化や価値観を尊重する態度を養う。	歴史的な資料や情報を収集・分析し、多角的な視点から考察する。 歴史的な事象の原因や結果、影響などを論理的に説明する。 自分の考えや解釈を適切に表現する。	現代社会の課題を歴史的な視点から捉え、その解決策を考察する。 歴史学習で得た知識やスキルを、現実の社会や生活に活用する。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 授業内小テスト	定期考査 レポート	定期考査 レポート 振り返り

教科担当からの 補足・連絡		
------------------	--	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1学期	諸地域の歴史的特質の形成 オリエント世界 南アジア世界 中国の古代文明	諸地域の歴史的特質の形成について、歴史と環境の因果関係を考察し、地域ごとの特色展開を理解する。	知技 各地域の文明の特徴を理解しているか。 各地域の文明の相互関係を理解しているか。 歴史用語や概念を使用し、歴史的な事象を説明できるようになっているか。
	中央ユーラシアと東アジア世界	中央ユーラシアの遊牧民が世界に与えた影響と中国王朝の変遷と周辺諸民族との関係について。	思判表 諸地域の歴史的特質を比較・分析し、その共通点や相違点を表現することができるか。 資料や情報を収集・分析し、多角的な視点から歴史的な事象の原因や結果、影響などを捉え、論理的に説明できているか。
	南アジア世界と東南アジア世界の展開	南アジアで生まれた宗教や文化と東南アジアで成立した社会について。	主体的 新たな疑問や課題を発見し、探究を深めているか。 自ら学び、探究しようとする意欲を持っているか。 他者と協力し、議論しながら学びを深めているか。
2学期	西アジアと地中海周辺の国家形成	西アジア諸国家とギリシア人の社会を比較し、それぞれの特徴を理解する。 ローマの地中海支配とキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかについて。	知技 都市国家やキリスト教やイスラーム教の特徴を理解しているか。 諸地域の国家、宗教の広がりやその相互関係を理解しているか。 歴史用語や概念を使用し、歴史的な事象を説明できるようになっているか。
	✕ イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	イスラーム教の成立と特徴とイスラーム帝国の拡大とその影響。 西ヨーロッパ世界と成立とその特徴、イスラーム世界の関係について。	思判表 諸地域の歴史的特質を比較・分析し、その共通点や相違点を表現することができるか。 資料や情報を収集・分析し、多角的な視点から歴史的な事象の原因や結果、影響などを捉え、論理的に説明できているか。
	イスラーム教の伝播と西アジアの動向  ヨーロッパ世界の変容と展開	イスラーム教の諸地域への広がりや西アジアの歴史とどのように関係したか。  封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動き。	主体的 新たな疑問や課題を発見し、探究を深めているか。 自ら学び、探究しようとする意欲を持っているか。 他者と協力し、議論しながら学びを深めているか。
3学期	ヨーロッパの海洋進出 アジア諸帝国の繁栄	ヨーロッパの海洋進出が、諸地域に与えた影響について。 世界の一体化に伴う国際交易の発展の中	知技 ヨーロッパの海洋進出が、諸地域に与えた影響について説明できるか。 アジア諸帝国の繁栄や、ルネサンスの特徴と影響を説明できる。宗教改革の原因と結果を説明できるか。 ルネサンスや宗教改革がヨーロッパに与えた影響を理解するか。

近世ヨーロッパ世界の動向（ルネサンス、宗教改革）	で、アジアの諸帝国がどのように発展していったか。	思 判 表	1, 2 学期の学習をもとに、近世をそれ以前の時代と比較・分析し、その共通点や相違点を表現することができているか。 資料や情報を収集・分析し、多角的な視点から歴史的事象の原因や結果、影響などを捉え、論理的に説明できているか。
	ルネサンス、宗教改革から中世ヨーロッパと近世ヨーロッパがどのように異なるのか。		主体的 新たな疑問や課題を発見し、探究を深めている。 自ら学び、探究しようとする意欲を持っている。 他者と協力し、議論しながら学びを深めている。

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	地歴公民	科目	地理探究	学年	3	単位数	3
使用教科書 副教材		新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 最新地理図表 GEO（第一学習社）					

学習の到達目標	<p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解すること。</li> <li>世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的スキルを身につけること。</li> <li>いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解すること。</li> <li>いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解すること。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</li> <li>現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。</li> <li>現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解している。</li> <li>世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的スキルを身につけている。</li> <li>いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につけている。</li> <li>世界の諸地域の多様な生活文化を理解・尊重しようとする態度を身につけている。</li> <li>現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能 問題を設定 定期考査の得点率 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している	定期考査において、思考・判断 表現を問う問題を設定 定期考査の得点率 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している	レポート、話し合い等で、「粘り強く学ぶ力」と「自らの学びを調整する力」の観点で評価をする 定期考査の得点率 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している

<b>教科担当からの 補足・連絡</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年次に学習した地理総合（特に、地形や気候の部分）の復習をしておく。</li> <li>・ 常に新聞やニュースを見る習慣をつける。</li> </ul>
--------------------------	---

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	第1章 自然環境 地形	1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	<b>知技</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解している。</li> <li>世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につけている。</li> <li>・ いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。</li> </ul>
		気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	<b>思判表</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・ 現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
		地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	<b>主体的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につけている。</li> <li>・ 世界の諸地域の多様な生活文化を理解・尊重しようとする態度を身につけている。</li> <li>・ 現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>
2 学期	第2章 資源と産業	農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と	<b>知技</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解している。</li> <li>世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につけている。</li> <li>・ いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。</li> </ul>

		<p>課題</p> <p>5 世界と日本の林業</p> <p>6 世界と日本の水産業</p> <p>エネルギー・鉱産資源</p> <p>1 エネルギー資源の種類と利用</p> <p>2 化石燃料の分布と利用</p> <p>3 電力の利用</p> <p>4 鉱産資源の種類と利用</p>	<p>思 判 表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・ 現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
			<p>主 体 的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につけている、</li> <li>・ 世界の諸地域の多様な生活文化を理解・尊重しようとする態度を身につけている。</li> <li>・ 現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>
3 学 期	第2章 資源と産業	<p>1 工業の発達と種類</p> <p>2 工業の立地</p> <p>3 世界の工業地域</p> <p>4 現代世界の工業の現状と課題</p> <p>5 工業の知識産業化とスタートアップ企業</p> <p>6 日本の工業</p>	<p>知 技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解している。</li> <li>世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につけている。</li> <li>・ いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。</li> </ul>
		<p>第3次産業</p> <p>1 経済発展と第3次産業</p> <p>2 商業の現状と変化</p> <p>3 商業以外のさまざまな第3次産業</p>	<p>思 判 表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・ 現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
			<p>主 体 的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につけている、</li> <li>・ 世界の諸地域の多様な生活文化を理解・尊重しようとする態度を身につけている。</li> <li>・ 現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	公民	科目	倫理	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		「倫理」(東京書籍)					

学習の到達目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己を確立し、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人間としての在り方生き方を考えるうえで必要な用語や人物について理解している。	先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深め、自分の考えを的確に表現できる。	より良く生きようとする姿勢、より良い社会を構築していこうという姿勢を持ちながら、他者と協力し主体的に学習に取り組んでいる。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 授業内小テスト 等	定期考査 授業内小テスト 等	レポート グループワーク 等

教科担当からの 補足・連絡	どう生きるかを考える上で、社会の出来事に関心を持つこと。
------------------	------------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方 生き方 第1章人間の心のあり方  第2章さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ	1節 人間とは何か 2節 人間の心の動き  1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間の特質、青年期の課題について理解している。</li> <li>●人間の理性の働き、感情の動きや青年期の特徴などについて理解している。</li> <li>●それぞれの哲学者が考える人間の在り方について理解している。</li> <li>●宗教と人間関係を理解し、世界三大宗教の特質を理解している。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>●青年期をどう生きるべきか、他者の考えを尊重しながら自分の考えを表現している。</li> <li>●人間としてどう生きるか、自らの人生観、世界観ないし価値観を形成するよう自ら思索し表現している。</li> <li>●視野を広く持ち、根本的な問いについて、自ら思索し表現している。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の人生をより良くしようという意識を持ち、人間としての在り方を主体的に考察しようという姿勢がある。</li> <li>●自分と異なる意見・考え方・思想に対し、尊重する姿勢がある。</li> <li>●学んだ事を日常生活や社会参加に結び付け、社会の一員としての自己のあり方について考えようとする態度が見られる。</li> </ul>
2学期	現代の諸課題と倫理	1節 生命 出生前診断 臓器移植  5節 文化と宗教 さまざまな文化や宗教の共生  6節 戦争と平和	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>●命を尊重するために整備されている法や制度について理解している。</li> <li>●現代社会で人によって考え方が異なる課題が存在することを認識している。</li> <li>●過去・現在の戦争について、原因と結果、その影響を理解している。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>●命に関する様々な考え方に触れ、それらを比較検討し自分の考えを構築し表現している。</li> <li>●国際社会や国内で起きる文化や宗教の違いによる問題について、解決策を模索し表現している。</li> <li>●新聞やニュースを活用し、世界で起きている紛争や戦争について想像力を働かせ思考することができる。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現実に存在する社会の諸課題について、自分にも起こりうることと考え、主体的に考察する態度が見られる。</li> <li>●多様性のある社会を作り、誰もが共生できる社会を作ろうとする意欲がある。</li> </ul>
3学期	1年のまとめ	君たちはどう生きるか	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今まで学んだ知識が定着している。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他者の意見を尊重し、自分の考えを伝えることができる。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の人生をより良くするために学ぶ意欲を持っている。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	地歴	科目	異文化理解	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		現代の歴史総合 みる・読みとく・考える(山川出版社)					

学習の到達目標	<p>① 多様な文化への理解を深め、異文化間コミュニケーション能力を養う。</p> <p>② グループワークを通して、協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力を育成する。</p> <p>③ ワークショップの企画・実施を通して、創造性、表現力、プレゼンテーション能力を高める。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>様々な文化の多様性や特徴を理解する。</p> <p>異文化間の共通点や相違点を認識する。</p> <p>歴史や地理が人々の生活や価値観にどのように影響しているか理解する。</p> <p>創造的なアイデアを生み出すための発想力や、それを具体化する技術を習得している。</p>	<p>異文化理解を通して相対的に日本の文化を理解し、多様な視点から多角的に考察できる。</p> <p>異文化に対する固定観念や偏見の原因を分析し、その違いから生まれる誤解や摩擦の原因を説明できる。</p> <p>ワークショップの目的や対象者に合わせて、自分の考えを他者の意見を尊重しながら明確かつ魅力的に表現できる。</p>	<p>異文化を尊重し、理解しようとする。</p> <p>多様化、複雑化する社会に生きる一員として、異文化を理解することの可能性を見出そうとする。</p> <p>ワークショップの企画・実施を通じて、自己の成長に繋げようとする。</p>

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>定期考査</p> <p>レポート</p>	<p>レポート</p> <p>発表</p> <p>授業中の活動(制作物)</p>	<p>定期考査</p> <p>レポート</p> <p>発表</p> <p>授業中の姿勢</p> <p>振り返り</p>

教科担当からの 補足・連絡	担当者によって授業内容が大幅に変わる可能性があります。
------------------	-----------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期	オリエンテーション 世界と日本の文化の理解・調査・発表（個人）	オリエンテーション 異文化理解とは？ 日本の文化について理解する 日本の文化について1つテーマを決めて調べて発表する	知技	各地域の文化的観点における歴史的背景や地理的要因を理解し、共通点や相違点を認識する。
	ワークショップ体験・理解（グループ）	ワークショップ形式で異文化を体験し理解する ワークショップデザインの基礎を知る グループに分かれて2	思判表	1つの地域から文化を見つめ、他地域との比較を通して、共通点や相違点を見出し、異文化理解につなげることができる。 文化の違いから生まれる誤解や摩擦の原因を説明できる。
	ワークショップ構想（グループ）	学期に行うワークショップの構想を考える	主体的	異文化を尊重し、理解しようとしている。 自分の考えを他者と共有し、意見交換を通してさらに考察を深めようとしている。
2学期	ワークショップ企画・実施（グループ）	異文化理解を深める ワークショップを企画する プレワークショップを実施する プレワークショップを通して企画内容を改善する ワークショップを実施する	知技	1学期の学習も踏まえてワークショップの企画・運営に必要な知識を習得している。 創造的なアイデアを生み出すための発想力や、それを具体化する技術を習得している。 効果的なワークショップ企画・実施のための構成力、表現力、発表技術を習得している。
	ワークショップ振り返り（個人・グループ）	ワークショップの振り返りを行う	思判表	ワークショップの目的や対象者に合わせて独創的な企画を立案し、グループメンバーと協力して、課題解決のための最適な方法を考え判断できる。 自分の考えを他者の意見を尊重しながら明確かつ魅力的に表現できる。 ワークショップの成果やプロセスを振り返り、改善点を考察できる。 ワークショップの企画・実施を通して、参加者の理解を促し、共感を得ることができる。
			主体的	異文化を尊重し、理解しようとしている。 自ら課題を見つけ、他者との交流などを通して、その背景や構造、本質を深く掘り下げて探究しようとしている。 ワークショップの企画・実施を通じて、自己の成長に繋げようとしている。 多様化、複雑化する社会に生きる一員として、多様な視点から、異文化を理解することの可能性を見出そうとしている。
3学期	1年間の振り返り（個人）	1年間の振り返りを行う	知技	様々な文化の多様性や特徴を、具体例を用いて説明できる。 歴史や地理が人々の生活や価値観にどのように影響しているかを、具体例を用いて説明できる。 ワークショップの企画・運営に必要な知識を習得している。
			思判表	2学期にグループで企画・実施したワークショップの成果やプロセスを振り返り、改善点を考察できる。
			主体的	異文化を尊重し、理解しようとしている。 ワークショップの企画・実施を通じて、自己の成長に繋げようとしている。 多様化、複雑化する社会に生きる一員として、多様な視点から、異文化を理解することの可能性を見出そうとしている。 1年間の学びを振り返り、自分の人生に生かそうとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅲ	学年	3	単位数	3
使用教科書 副教材		東京書籍数学ⅢStandard、STAGE 数学Ⅲ					

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、統合的・発展的に考察したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</p>	<p>・値の変化に着目し、事象を的確に表現し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。</p>	<p>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p>

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する。</p>	<p>定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。</p>	<p>提出物・授業への取り組み等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。</p>

教科担当からの 補足・連絡	<p>特にありません。</p>
------------------	-----------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1学期	1章 関数と極限	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の意味を理解し、逆関数や合成関数を求めることができる。</li> <li>数列の極限を求めたり、無限数列について理解し、その収束、発散を調べたり、和を求めたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数関数、無理関数、逆関数、合成関数を求め、グラフを書くことができる。</li> <li>数列の収束、発散と極限を求めることができる。</li> <li>無限等比数列、無限級数について理解し、その収束、発散を調べたり、その和を求めたりすることができる。</li> <li>図形への応用や理解を深め、問われたものを求めることができる。</li> <li>指数関数、対数関数、三角関数などの極限を調べ、関数が連続である区間を求めることができる。</li> </ul>
	2章 微分	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな関数の極限を調べ、関数の連続性及び中間値の定理について理解し、ある区間における実数解の存在を証明することができる。</li> <li>さまざまな関数の性質を理解し、微分法について研究し、それらを用いている関数の導関数を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の微分可能性と連続性、積の微分法を用いて、商の導関数について考察することができる。</li> <li>導関数の定義や対数微分法を用いて、指数関数の導関数を考察することができる。</li> <li>いろいろな関数の第n次導関数を考察することができる。</li> </ul>
2学期	3章 微分の応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>接線及び法線の方程式、媒介変数を理解し、接線の方程式を求めたりすることができる。そこから関数の極値を求め、いろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。</li> <li>関数の最大最小や不等式を証明することができる。また速度・加速度など導関数を用いて表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな曲線の接線の方程式、法線の方程式を求めることができる。</li> <li>関数の増減を調べたり、関数の値の変化を調べて、グラフの概形をかき最大値・最小値を求めることができる。また、不等式を証明したり、方程式の実数解の個数を調べたりすることができる。</li> <li>置換積分法、部分積分法などを利用し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。また性質を理解し、定積分の値を求めることができる。</li> <li>積分と微分の関係を理解し、定積分で表された関数を微分したり、区分求積法の考え方を理解し、和の極限値を求めることができる。</li> </ul>
	4章 積分とその応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>積分の基本を理解し、不定積分・置換積分法・部分積分法について理解し、不定積分を求めることができる。</li> <li>定積分や区分求積法の考え方を理解し、和の極限値を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均値の定理より、不等式を証明したり、速度の変化の様子を説明することができる。また微分の応用を用いて身近な問題を解決したり、合成関数の微分法から、不定積分を推測することができる。</li> <li>置換積分法、積の微分法、部分積分法について考察することができる。</li> <li>定積分を用いて、面積や不等式の証明を考察することができる。</li> </ul>
3学期	4章 積分とその応用(つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や、立体の体積を求めることができる。曲線の長さについても理解し、その値を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな曲線で囲まれた図形や、立体の体積を求めることができる。</li> <li>曲線の長さが定積分によって求められることを理解し、曲線の長さを求めることができる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>面積の求め方について、いろいろな視点で考察することができる。回転体の体積の求め方なども考察することができる。</li> <li>曲線の長さを求める方法や速度を与えられたときの道のりを考察することができる。</li> <li>積分とその応用で学んだことを用いて身近な問題を解決したり、事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>面積の求め方について、いろいろな視点で考えようとしている。</li> <li>回転体の体積の求め方を考えようとしている。</li> <li>積分とその応用で学んだことを、具体的な事象の考察に活用しようとしている。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	数学	科目	数学C	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		東京書籍数学C Standard、STAGE 数学C					

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念や原理・法則を理解し、数学的な表現の工夫について認識を深めている。</li> <li>事象を数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形的な意味を考察する力と、それらの性質を統合的・発展的に考察する力を身に付けている。</li> <li>数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え判断しようとしている。</li> <li>考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する。</p>	<p>定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。</p>	<p>提出物・授業への取り組み等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。</p>

教科担当からの 補足・連絡	<p>特にありません。</p>
------------------	-----------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1学期	1章 ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面上のベクトルの演算法則、分解について理解する。また、成分表示を利用してベクトルの演算や平行・分解などについての理解を深め、なす角や成分表示、内積の性質を用いて大きさなどを求めることができる。</li> <li>位置ベクトルについて多面的に考察したりすることができる。</li> <li>平面上のベクトルの考えを空間に拡張できることを理解する。空間座標の概念及びその意味や表し方を理解し、すべてにおいて平面におけるベクトルの考えを拡張して空間図形の性質について多面的に考察したり、空間における図形のベクトル方程式を求めたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。</li> <li>ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解している。</li> <li>座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。</li> <li>ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。</li> <li>数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用することができる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</li> </ul>
2学期	2章 平面上の曲線	<ul style="list-style-type: none"> <li>放物線、楕円、双曲線の定義とその方程式について、軌跡の考え方を用いて考察し、平行移動など基本的な性質について理解する。また、直線との共有点について、判別式を用いたり接線の方程式を求めたりすることができる。</li> <li>媒介変数表示された曲線の方程式や、直交座標と極座標の関係及び極方程式について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放物線、楕円、双曲線が2次式で表されること及びそれらの2次曲線の基本的な性質について理解している。</li> <li>曲線の媒介変数表示について理解している。</li> <li>極座標の意味及び曲線が曲方程式で表されることについて理解している。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。</li> <li>日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、媒介変数表示や極座標の考えを問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴やほかの事象との関係を考察したりすることができる。</li> </ul>
	3章 複素数平面	<ul style="list-style-type: none"> <li>複素数を理解し、積・商と複素数平面上の回転移動との関係を理解する。</li> <li>ド・モアブルの定理を用いてその解を複素数平面上に図示することができる。</li> <li>偏角を用いて複素数平面上のなす角の大きさを理解する。また、複素数平面上の三角形の形状や、内分点や外分点、円、軌跡を表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象を平面上の曲線の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</li> </ul>
3学期	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面ベクトル、空間ベクトル、平面上の曲線、複素数平面についての復習と、入試問題等の研究を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>数学的な表現の工夫について認識を深めている。</li> <li>事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察することができる。</li> <li>図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察することができる。</li> <li>数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	数学	科目	数学実践	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		なし					

学習の到達目標	1年次に学習した数学Ⅰ・Aの学習内容を復習して、入試問題を演習する。
---------	------------------------------------

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
・1年次に学習した数学Ⅰ・Aの教科書の内容の問題を解ける力を身に付けている。	・1年次に学習した数学Ⅰ・Aの問題集の内容の問題を解ける力を身に付けている。	・授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。 ・課された宿題に真剣に取り組んでいる。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物・授業への取り組み等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	事前に1年生で学習した内容を理解しておくこと。
------------------	-------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>数と式</li> <li>2次関数</li> </ul>	それぞれの単元の学習内容の例題をやり、それに対応した問題演習を行う。	知技	1年次に学習した数学I・Aの教科書の内容の問題を解ける力を身に付けている。
			思判	1年次に学習した数学I・Aの問題集の内容の問題を解ける力を身に付けている。
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。</li> <li>課された宿題に真剣に取り組んでいる。</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角比</li> <li>場合の数</li> </ul>	それぞれの単元の学習内容の例題をやり、それに対応した問題演習を行う。	知技	1年次に学習した数学I・Aの教科書の内容の問題を解ける力を身に付けている。
			思判表	1年次に学習した数学I・Aの問題集の内容の問題を解ける力を身に付けている。
			主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。</li> <li>課された宿題に真剣に取り組んでいる。</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の総まとめ</li> </ul>	それぞれの単元の学習内容の例題をやり、それに対応した問題演習を行う。	知技	1年次に学習した数学I・Aの教科書の内容の問題を解ける力を身に付けている。
			思判	1年次に学習した数学I・Aの問題集の内容の問題を解ける力を身に付けている。
			主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。</li> <li>課された宿題に真剣に取り組んでいる。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	数学	科目	数学理解	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		なし					

学習の到達目標	1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの学習内容を復習して、数学の考え方をより深める。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
・1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの教科書の内容の問題を解ける力を身に付けている。	・1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの問題集の内容の問題を解ける力を身に付けている。	・授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。 ・課された宿題に真剣に取り組んでいる。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
問題演習（小テスト、授業時演習）により、知識・技能を問う問題を設定する	実践課題、レポート（授業内、授業外）を評価材料にして思考力・判断力・表現力を問う。	提出物・授業への取り組み等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	事前に1・2年生で学習した内容を理解しておくこと。
------------------	---------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学 期	主に2年次の1学期に やった内容及び2年 次に学習できなかった 内容(発展やチャレ ンジ例題など)	それぞれの単元の学 習内容の例題をや り、それに対応した 問題演習を行う。	知 技	1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの教科書の内容の問題を 解ける力を身に付けている。
			思 判 表	1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの問題集の内容の問題を 解ける力を身に付けている。
			主 体 的	・授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。 ・課された宿題に真剣に取り組んでいる。
2 学 期	主に2年次の2学期に やった内容及び2年 次に学習できなかった 内容(発展やチャレ ンジ例題など)	それぞれの単元の学 習内容の例題をや り、それに対応した 問題演習を行う。	知 技	1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの教科書の内容の問題を 解ける力を身に付けている。
			思 判 表	1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの問題集の内容の問題を 解ける力を身に付けている。
			主 体 的	・授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。 ・課された宿題に真剣に取り組んでいる。
3 学 期	・1年間の総まとめ	それぞれの単元の学 習内容の例題をや り、それに対応した 問題演習を行う。	知 技	1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの教科書の内容の問題を 解ける力を身に付けている。
			思 判 表	1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱ・Aの問題集の内容の問題を 解ける力を身に付けている。
			主 体 的	・授業中に課された課題に対して真剣に取り組んでいる。 ・課された宿題に真剣に取り組んでいる。

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	理科	科目	化学	学年	3	単位数	4
使用教科書 副教材		「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」(東京書籍) 「新課程版セミナー化学基礎+化学」(第一学習社)					

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</li> <li>・化学的な事物・現象を観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</li> <li>・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象についての観察，実験などを行うことを通して，化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象を対象に，探究の過程を通して，情報の収集，仮設の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。また，報告書を作成したり発表したりして，科学的に探究する力を身に付けている。	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査  等	定期考査  等	授業内小テスト 実験レポート  等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません。
------------------	----------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学 期	Vol.1 理論編		
	1編 物質の状態		
	1章 物質の状態		
	1節 物質の三態	A 状態変化とエネルギー B 状態変化と分子間力	物質の状態とその変化についての実験などを通して、状態変化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	2節 気体・液体間の状態変化	A 気体の圧力 B 気液平衡と蒸気圧 C 沸騰 D 状態図	物質の状態とその変化についての実験などを通して、気体の性質の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	2章 気体の性質		溶液と平衡についての実験などを通して、溶解平衡および溶液とその性質の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	1節 気体	A ボイルの法則 B シャルルの法則 C ボイル・シャルルの法則	物質の状態とその変化についての実験などを通して、固体の構造の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	2節 気体の状態方程式	A 気体の状態方程式 B 気体の分子量 C 混合気体 D 理想気体と実在気体	化学反応とエネルギーについての実験などを通して、化学反応と熱・光の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。
	3章 溶液の性質		化学反応と化学平衡についての実験などを通して、反応速度の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。
	1節 溶解	A 溶解のしくみ B 固体の溶解度 C 溶液の濃度 D 気体の溶解度	化学反応と化学平衡についての実験などを通して、化学平衡とその移動の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。
	2節 希薄溶液の性質	A 蒸気圧降下と沸点上昇 B 凝固点降下 C 沸点上昇・凝固点降下と分子量 D 浸透圧 E 浸透圧と分子量	化学反応と化学平衡についての実験などを通して、電離平衡の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。
	3節 コロイド	A コロイド粒子 B コロイド溶液の性質 C コロイド溶液の種類	
	4章 固体の構造		状態変化について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
	1節 結晶	A 結晶の種類	気体の性質について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
	2節 金属結晶の構造	A 金属結晶の構造	溶解平衡および溶液とその性質について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
	3節 イオン結晶の構造	A イオン結晶の構造	固体の構造について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
	4節 分子結晶と共有結合の結晶	A 分子結晶 B 共有結合の結晶	化学反応と熱・光について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
2編 化学反応とエネルギー		反応速度について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	
1章 化学反応と熱・光		化学平衡とその移動について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	
1節 反応とエンタルピー変化	A 化学反応と熱の出入り B エンタルピーの変化 C いろいろな反応のエンタルピー	電離平衡について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	

知  
技

思  
判  
表

	D 生成エンタルピーと反応エンタルピー E 化学反応が自然に進む方向	主体的	状態変化について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
2節 ヘスの法則	A ヘスの法則 B 結合エンタルピー		気体の性質について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
3節 光とエネルギー	A 光とエネルギー B 物質と光		溶解平衡および溶液とその性質について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
3編 化学反応の速さと平衡			固体の構造について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
1章 化学反応の速さ			化学反応と熱・光について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
1節 反応の速さ	A 速い反応と遅い反応 B 反応の表し方		反応速度について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
2節 反応速度を変える条件	A 反応速度と濃度 B 反応速度と温度 C 反応速度と触媒 D 反応速度を変えるほかの要因		化学平衡とその移動について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
3節 反応のしくみ	A 粒子の衝突 B 活性化エネルギー		電離平衡について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
2章 化学平衡			
1節 可逆反応と化学平衡	A 可逆反応と不可逆反応 B 化学平衡 C 平衡定数と化学平衡の法則		
2節 平衡の移動	A 平行移動の原理 B 濃度変化と平衡の移動 C 圧力変化と平衡の移動 D 温度変化と平衡の移動 E 触媒と平衡の移動 F ルシャトリエの原理の化学工業への応用		
3章 水溶液中の化学平衡			
1節 電離平衡	A 電離平衡 B 水の電離平衡		
2節 塩の水への溶解	A 塩の水溶液の性質 B 緩衝液とpH C 溶けにくい塩の溶解平衡 D 溶解平衡と金属イオンの分離		

2 学 期	Vol.2 物質編			
	5 編 有機化合物			
	1章 有機化合物の特徴と構造			
	1節 有機化合物の特徴	A 有機化合物の多様性と特徴 B 炭化水素の分類 C 官能基による分類 D 有機化合物の表し方 E 異性体	知 技	有機化合物についての実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。 有機化合物についての実験などを通して、炭化水素の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。 有機化合物についての実験などを通して、官能基をもつ化合物の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。 有機化合物についての実験などを通して、芳香族化合物の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。
	2節 有機化合物の構造式の決定	A 構造式決定の手順		高分子化合物についての実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。 高分子化合物についての実験などを通して、天然高分子化合物の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。 高分子化合物についての実験などを通して、合成高分子化合物の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。
	2章 炭化水素			
	1節 飽和炭化水素	A アルカンの構造 B アルカンの性質 C アルカンの反応 D シクロアルカン	思 判 表	有機化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 炭化水素について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 官能基をもつ化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 芳香族化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 高分子化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 天然高分子化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 合成高分子化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
	2節 不飽和炭化水素	A アルケンの構造 B シス・トランス異性体 C アルケンの製法と反応 D シクロアルケン E アルキン		
	3章 アルコールと関連化合物			
	1節 アルコールとエーテル	A アルコールの構造と分類 B アルコールの性質 C さまざまなアルコール D アルコールの反応 E エーテル		
	2節 アルデヒドとケトン	A カルボニル化合物 B アルデヒド C ケトン		
	3節 カルボン酸	A カルボン酸の構造と分類 B カルボン酸の性質 C さまざまなカルボン酸 D 鏡像異性体		
4節 エステル・油脂	A エステル B 油脂 C セッケン			

<p>4章 芳香族化合物</p> <p>1節 芳香族炭化水素</p> <p>2節 フェノール類と芳香族カルボン酸</p> <p>3節 芳香族アミンとアゾ化合物</p> <p>4節 芳香族化合物の分離</p> <p>6編 高分子化合物</p> <p>1章 高分子化合物とは何か</p> <p>1節 高分子化合物の分類と特徴</p> <p>2章 天然高分子化合物</p> <p>1節 単糖類と二糖類</p> <p>2節 多糖類</p> <p>3節 アミノ酸</p> <p>4節 タンパク質</p> <p>3章 合成高分子化合物</p> <p>1節 合成繊維</p> <p>2節 合成樹脂</p> <p>3節 ゴム</p>	<p>A ベンゼン</p> <p>B 芳香族炭化水素</p> <p>C 芳香族炭化水素の反応</p> <p>A フェノール類</p> <p>B フェノール類の性質</p> <p>C フェノール</p> <p>D 芳香族カルボン酸</p> <p>A 芳香族アミン</p> <p>B アゾ化合物</p> <p>芳香族化合物の分離</p> <p>A 高分子化合物の分類</p> <p>B 高分子化合物の構造</p> <p>C 天然高分子化合物の種類と特徴</p> <p>D 合成高分子化合物の種類と特徴</p> <p>A 糖類の分類</p> <p>B 単糖類</p> <p>C 二糖類</p> <p>A デンプンとグリコーゲン</p> <p>B セルロース</p> <p>C セルロースの利用</p> <p>A アミノ酸の種類</p> <p>B アミノ酸の性質と反応</p> <p>C ペプチド</p> <p>A タンパク質の分類</p> <p>B タンパク質の構造</p> <p>C タンパク質の性質</p> <p>D タンパク質の呈色反応</p> <p>E 酵素</p> <p>A 縮合重合・開環重合と合成繊維</p> <p>B 付加重合と合成繊維</p> <p>A 熱可塑性樹脂</p> <p>B 熱硬化性樹脂</p> <p>C イオン交換樹脂</p> <p>A 天然ゴム</p> <p>B 合成ゴム</p>	<p>有機化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>炭化水素について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>官能基をもつ化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>芳香族化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>高分子化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>天然高分子化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>合成高分子化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>主体的</p>
<p>4編 無機物質</p> <p>3章 典型元素の単体と化合物</p> <p>1節 アルカリ金属とその化合物</p> <p>4章 遷移元素の単体と化合物</p> <p>2節 遷移元素と化合物</p> <p>4章 金属イオンの分離と確認</p> <p>1節 金属イオンが検出できる反応</p> <p>2節 金属イオンの系統分離と確認</p>	<p>A アルカリ金属</p> <p>B ナトリウム化合物</p> <p>A 鉄とその化合物</p> <p>B 銅とその化合物</p> <p>C 銀とその化合物</p> <p>D 亜鉛とその化合物</p> <p>A 炎色反応</p> <p>B 沈殿反応</p> <p>A 金属イオンの系統分離</p>	<p>水酸化ナトリウムの製法・性質を正しく理解している。</p> <p>鉄とその化合物、鉄イオンの反応について、正しく理解している。</p> <p>Cu<sup>2+</sup>の反応について、正しく理解している。</p> <p>Ag<sup>+</sup>の反応について、正しく理解している。</p> <p>Zn<sup>2+</sup>の反応について、正しく理解している。</p> <p>アルカリ金属について、製法と性質をこれまでの学習を元に正しく説明することができる。</p> <p>アンモニアソーダ法についてその特徴を正しく理解し、原料と生成物を確認して問を解くことができる。</p> <p>複数の金属イオンの混合溶液から金属イオンを効率よく分離する方法について、その手順を考えている。</p> <p>アルカリ金属の化合物に関する実験を行い、その特徴を整理しようとしている。</p> <p>金属イオンの沈殿反応について、これまでの学習を元に、まとめ理解しようとしている。</p> <p>これまでの学習を元に、実験計画を立て、まとめようとしている。</p> <p>知的</p> <p>思判表</p> <p>主体的</p>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	理科	科目	生物	学年	3	単位数	4
使用教科書 副教材		高等学校 生物(第一学習社) 新課程版 25セミナー生物(第一学習社)					

学習の到達目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を習得する。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生物の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察や実験に関する基本的な技能を身に着けるようにする。	生物の基本的な概念や原理・原則を踏まえて生物や生物現象を論理的に捉え、伝え合うことができる。観察・実験などを行い、科学的に探究しようとする。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとするとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査(知識問題) 授業内小テスト	定期考査(思考問題) 実験・実習レポート	授業内小テスト 実験・実習レポート 振り返りシート

教科担当からの 補足・連絡	<p>入試科目としての生物の授業展開を希望する生徒への対応を意識した授業展開を目指します。</p> <p>(1) 1月実施の大学入学共通テストに対応できるよう、11月上旬までに全範囲の履修を完了する。</p> <p>(2) 受験科目として生物を選択している生徒に対しては、長期休業を活用して履修内容の補強を行う。の2本が大きな柱です。</p>
------------------	---

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1学期	1. 生物の進化	(1) 生命の起源と細胞の進化 (2) 遺伝子の変化と進化のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦生命の起源と細胞の進化に関する資料に基づいて、生命の起源に関する考えを理解できる。</li> <li>◦遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変換関係を理解できる。</li> <li>◦交配実験の結果などの資料に基づいて、生殖を通じて遺伝子の組み合わせが変化することを理解できる。</li> </ul>
	2. 生物の系統と進化	(1) 生物の系統と進化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦進化のしくみに関する実験観察を行い、遺伝子頻度が変化する要因を理解できる。</li> </ul>
	3. 細胞と分子	(1) 生体物質と細胞 (2) 生命現象とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦生命の起源と細胞の進化に関する資料に基づいて、生命の起源に関する考えを理解できる。</li> <li>◦生物の遺伝情報に関する資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸との関係を理解できる。</li> </ul>
4. 代謝	(1) 呼吸 (2) 光合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦霊長類に関する資料に基づいて人類の系統と進化を各人類の形態的特徴などと関連付けて理解できる。</li> <li>◦生体物質と細胞に関する資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解できる。</li> </ul>	
5. 遺伝情報とその発現	(1) 遺伝情報とその発現	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦生命現象とタンパク質に関する観察・実験を行い、タンパク質の機能を生命現象と関連付けて理解できる。</li> <li>◦呼吸に関する資料に基づいて、呼吸をエネルギーの流れと関連付けて理解できる。</li> <li>◦光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解できる。</li> <li>◦DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみを理解できる。</li> <li>◦遺伝子の発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現のしくみを理解できる。</li> </ul>	
			<p style="text-align: center;">知 技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦生命の起源について、資料や観察・実験などを通じて探究し、生命の起源についての特徴を見出して説明できる。</li> <li>◦生物の進化について、資料や観察・実験などを通じて探究し、生物の進化についての特徴を見出して説明できる。</li> <li>◦人類の進化について資料を通じて探究し、人類の進化についての特徴を見出して説明できる。</li> <li>◦生命現象と物質について、資料や観察・実験などを通じて探究し、生命現象と物質についての特徴を見出して説明できる。</li> <li>◦遺伝子の発現のしくみについて、資料や観察・実験などを通じて探究し、遺伝子の発現のしくみについての特徴を見出して説明できる。</li> </ul>
			<p style="text-align: center;">思 判 表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦生物の進化についての知識を理解し、説明しようとしている。</li> <li>◦生物の進化についての観察・実験の技能を身につけようとしている。</li> <li>◦生命現象と物質について知識を理解し、説明しようとしている。</li> <li>◦生命現象と物質についての観察・実験の技能を身につけようとしている。</li> <li>◦遺伝情報の発現についての知識を理解し、説明しようとしている。</li> <li>◦遺伝情報の発現についての観察・実験の技能を身につけようとしている。</li> <li>◦定期考査や実験・観察等、授業への参加を通じて自ら到達目標、方策を立て、取り組みを振り返り、次の学びへとつなげようとしている。</li> </ul>
			<p style="text-align: center;">主 体 的</p>

2 学 期	6. 遺伝子の発現調節と発生	(1) 遺伝子の発現調節 (2) 発生と遺伝子発現	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを理解できる。</li> <li>◦遺伝子の発現に関する資料に基づいて、転写の調節とそれにかかわる調節タンパク質と関連付けて理解できる。</li> <li>◦発生に関わる遺伝子の発現に関する資料に基づいて、発生の過程における分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解できる。</li> <li>◦遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解できる。</li> <li>◦遺伝子の発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現のしくみを理解できる。</li> </ul>	
	7. 遺伝子を扱う技術と応用	(1) 遺伝子を扱う技術		<ul style="list-style-type: none"> <li>◦刺激の受容と反応に関する資料に基づいて、外界の刺激を受容し神経系を介して反応するしくみを、関与する細胞と関連付けて理解できる。</li> <li>◦動物の行動に関する資料に基づいて、行動を神経系のはたらきと関連付けて理解できる。</li> <li>◦植物の環境応答に関する資料に基づいて、被子植物の生活環と生殖器官の特徴について理解できる。</li> <li>◦植物の環境応答に関する資料や観察・実験を通じて、植物の反応や成長に植物ホルモンが関わっていることを理解できる。</li> </ul>	
	8. 動物の反応と行動	(1) 刺激の受容と反応 (2) 動物の行動		<ul style="list-style-type: none"> <li>◦遺伝情報の発現調節のしくみについて、資料や実験・観察を通じて探究し、遺伝子発現の調節のしくみを見出し、説明できる。</li> <li>◦遺伝子を扱う技術について、資料や実験を通じて探究し、その原理や有用性を説明できる。</li> <li>◦生物の環境応答について、資料や実験・観察を通じて探究し、環境変化に対する生物の応答のしくみと特徴を見出し、説明できる。</li> </ul>	
3 学 期	9. 植物の成長と環境応答	(1) 植物の環境応答	主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦遺伝情報の発現調節と発生についての知識を理解し、説明しようとしている。</li> <li>◦遺伝情報の発現調節と発生についての観察・実験の技能を身につけようとしている。</li> <li>◦遺伝子を扱う技術について、人類にもたらす有用性と課題について思索しようとしている。</li> <li>◦生物の環境応答について知識を理解し、説明しようとしている。</li> <li>◦生物の環境応答についての観察・実験の技能を身につけようとしている。</li> <li>◦定期考査や実験・観察等、授業への参加を通じて自ら到達目標、方策を立て、取り組みを振り返り、次の学びへとつなげようとしている。</li> </ul>	
	10. 生態系のしくみと人間の関わり	(1) 個体群 (2) 生物群集 (3) 生態系の物質生産と物質循環 (4) 生態系と人間生活		知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦個体群内の相互作用に関する資料や観察・実験などを通じて、個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を理解できる。</li> <li>◦個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持されるしくみや個体群間の関係性を理解できる。</li> <li>◦生態系の物質生産と物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動を生態系内の物質循環と関連付けて理解できる。</li> <li>◦生態系と人間生活に関する資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を理解できる。</li> </ul>
					<ul style="list-style-type: none"> <li>◦生態系と環境について、資料や観察などを通じて探究し、生態系における生物間の関係性及び生物と環境のとの関係性を見出して説明できる。</li> <li>◦生態系と人間生活について、資料や観察などを通じて探究し、人間生活と生態系の関係性を見出して説明できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦定期考査や実験・観察等、授業への参加を通じて自ら到達目標、方策を立て、取り組みを振り返り、次の学びへとつなげることができる。</li> <li>◦人類の活動の基盤が生態系サービスによって成り立っていることを理解し、人類の活動と自然との共存の重要性に気づき、持続可能な人間の活動の在り方について思索し、その実現に寄与しようとしている。</li> </ul>					

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	理科	科目	物理	学年	3	単位数	4
使用教科書 副教材		物理（数研出版） リードα物理（数研出版）					

学習の到達目標	物理の学習を通して、自然に対する関心を高め、基礎的な知識の定着を図るとともに、実験や観察などを通じて科学的に探究する力を育成する。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物・授業や実験への取り組み・等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期 中間	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度 2. 落体の運動  第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力のつりあい  2. 剛体にはたらく力の合力と重心  第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積  2. 運動量保存則  3. 反発係数	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に加速度のベクトルの扱いを学習</li> <li>水平投射、斜方投射の復習</li> <li>力のモーメントの導入</li> <li>単純な力のつりあいと力のモーメントのつりあいを組み合わせた学習</li> <li>剛体にはたらく力の合力の性質を学ぶ</li> <li>力のモーメントのまとめとしての物体の重心の性質を学び、重心の位置の計算式を学ぶ</li> <li>運動量の定義と運動量の増減をもたらす物理量、すなわち力積を学習する</li> <li>運動量の保存の意義と実際の運用を学習する</li> <li>反発係数の導入により衝突の分類ができることを学ぶ</li> <li>さらに、運動量保存と組み合わせた現象の理解</li> </ul>	<p>知 技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。</li> <li>加速度は速度の時間変化を表すものであり、ベクトル量であること、またその求め方を理解できている。</li> <li>水平投射・斜方投射が既知の運動の合成であることを理解し、適切に式を運用できる。</li> <li>力のモーメントについて理解している。</li> <li>剛体のつりあいでは、並進運動をしない条件と回転運動しない条件が必要なことを理解している。</li> <li>剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる。</li> <li>与えられた剛体（または物体系）の重心を求めることができる。</li> <li>剛体の転倒する条件を理解している。</li> <li>運動量と力積について、求め方を理解している。</li> <li>運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している。</li> <li>直線運動の場合だけでなく、平面運動での運動量と力積との間に成りたつ関係性をベクトル図から考えることができる。</li> <li>小球と床との間の反発係数は、衝突の前後における相対速度の比の絶対値で定義されることを理解している。</li> <li>斜め衝突について理解している。</li> <li>運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる。</li> <li>弾性衝突以外の衝突では、力学的エネルギーが保存されないことを理解している。</li> <li>ボールの反発係数を実験により調べることができる。</li> </ul>
			<p>思 判 表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>力のモーメントの式を理解し、<math>l</math>での長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる。</li> <li>剛体にはたらく力がつりあうための2つの条件を理解し、はたらく力の間の関係について説明できる。</li> <li>剛体の転倒する条件を理解し、重心の位置と転倒のしやすさの関係を説明できる。</li> <li>力のモーメントの基準点を適切な位置にとり、剛体の転倒について考えることができる。</li> <li>運動量の変化と力積の関係の式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる。</li> <li>運動量保存則が成りたつ条件を説明することができる。</li> <li>反発係数と運動量、力学的エネルギーの関係を説明することができる。</li> <li>運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求め、物体の運動を説明することができる。</li> </ul>
			<p>主 体 的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平面運動をしている物体の速度や加速度、相対速度などの表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。</li> <li>剛体のつりあいには、並進運動しない条件だけでなく、回転運動をしない条件が必要なことを理解しようとしている。</li> <li>棒のつりあいを調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>剛体が傾く条件や転倒する条件を理解しようとしている。</li> <li>物体の運動について、運動量と力積を用いて理解しようとしている。</li> <li>台車が受ける力積と運動量の変化の間に成りたつ関係を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>身のまわりにある物体どうしの衝突の際に、衝突の前後で変わらない量があり、それが運動量であること、また運動量が衝突の前後で保存する条件を理解しようとしている。</li> <li>弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。</li> </ul>

1学期期末	<p>第4章 円運動と万有引力</p> <p>1. 等速円運動</p> <p>2. 慣性力</p> <p>3. 単振動</p> <p>4. 万有引力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>等速円運動における物体の速さ, 角速度, 回転数, 周期などの定義, およびこれらに成り立つ関係を学習</li> <li>等速円運動をする物体の加速度の性質の学習と向心力の性質の学習</li> <li>加速度運動している物体では, 慣性力を導入しないと運動の法則が成立しないことを学ぶ</li> <li>等速円運動では, 慣性力が遠心力という形で現れることを学習する</li> <li>等速円運動の正射影が単振動であることを学ぶ</li> <li>単振動の原因となる力が復元力であることを学ぶ</li> <li>単振動する物体の具体例として, ばね振り子と単振り子の運動の性質を学ぶ</li> <li>ケプラーの法則の学習</li> <li>ケプラーの法則から万有引力の法則が導かれることを学ぶ</li> <li>重力と万有引力の関係を学ぶ</li> <li>万有引力の位置エネルギーから, 万有引力を受けて運動する物体に力学的エネルギーの保存が適用でき, 一例として第2宇宙速度を導出する</li> </ul>	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボールの反発係数を実験により調べることができる。</li> <li>等速円運動をしている物体の回転の速度, 角速度, 周期, 回転数の諸量の定義が理解できている。</li> <li>等速円運動するのに必要な向心力を理解し, 運動方程式を立てられる</li> <li>遠心力が慣性力の一種であることを理解し, 遠心力を含めたつりあいの式を立てることができる。</li> <li>単振動の変位, 速度, 加速度の式, 運動方程式を理解している。</li> <li>ばね振り子の周期を表す式を導く過程を理解し, 周期や振幅, 最大の速さなどを求めることができる。</li> <li>単振り子の周期を表す式を導く過程を理解し, 周期を求めることができる。</li> <li>単振り子の周期を測定し, 重力加速度の大きさなどの量を求めることができる。</li> <li>ケプラーの法則を理解している。</li> <li>万有引力の式を理解している。</li> <li>万有引力の位置エネルギーの式を用いて, 力学的エネルギー保存則の式を立てることができる。</li> <li>気体の圧力を求める式を理解できている。</li> <li>ボイル・シャルルの法則を用いて, 状態変化後の気体の圧力, 体積, 絶対温度を求めることができる。</li> <li>理想気体の状態方程式を用いることができる。</li> <li>気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる。</li> <li>気体分子の平均運動エネルギーが絶対温度と関係あることを理解している。</li> <li>単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できている。</li> <li>気体の状態変化の, 「定積変化」, 「定圧変化」, 「等温変化」, 「断熱変化」を, それぞれ <math>p</math>-<math>V</math> 図や式で表すことができる。</li> <li>気体のモル比熱について理解し, マイヤーの関係やポアソンの法則を適切に用いることができる。</li> <li>熱機関のモデルとして, サイクルの状態変化を理解し, 熱効率を求めることができる。</li> </ul>
	<p>第2編 熱と気体</p> <p>第1章 気体のエネルギーと状態変化</p> <p>1. 気体の法則</p> <p>2. 気体分子の運動</p> <p>3. 気体の状態変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボイルシャルルの法則から理想気体の状態方程式を導く</li> <li>気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く</li> <li>この式と理想気体の状態方程式を組み合わせ, 気体分子の平均運動エネルギーを導く</li> <li>理想気体の内部エネルギーが絶対温度に比例することを学ぶ</li> <li>熱現象をも含めたエネルギー保存則として熱力学第一法則を学習</li> <li>熱力学第一法則の式を用いて, 定積変化, 定圧変化, 等温変化, 断熱変化を理解する</li> <li>熱効率や熱力学第二法則を学習する</li> </ul>	<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>等速円運動の中心方向の運動方程式から, 物体の運動を考えることができる。</li> <li>慣性力とその他の力の違いについて理解し, 説明できる。</li> <li>遠心力を用いて, 円運動する物体にはたらく力のようすを考えることができる。</li> <li>単振り子の周期の式を用いて, 重力加速度の大きさが異なる場所での運動のようすを考えることができる。</li> <li>ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて, 周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる。</li> <li>だ円運動する惑星の運動について説明できる。</li> <li>万有引力の式を用いて, 異なる惑星の表面上での重力加速度の大きさを比較することができる。</li> <li>無限遠を基準とした万有引力の位置エネルギーについて説明できる。</li> <li>気体の圧力, 体積, 絶対温度の間の関係について理解している。</li> <li>壁に分子が衝突することから分子の運動量の変化, 壁が受ける力積から壁が受ける圧力を考察し, 理想気体の気体分子の速度と圧力の関係について説明できる。</li> <li>平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる。</li> <li>気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる。</li> <li>定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し, 2つの間に成り立つ関係について説明できる。</li> <li>熱機関のしくみを説明できる。</li> </ul>
		<p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>等速円運動する物体には, どのような力がはたらいているかを理解しようとしている。</li> <li>電車などの乗りものが急発進をしたり, 急ブレーキをかけたとき, 車内の人に現れる力の原因について, 理解しようとしている。</li> </ul>	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・往復運動の一つである単振動について、運動（振動）の最中、速度や加速度がどのように変化しているか、また周期はどのようにすれば変化するのかということを理解しようとしている。</li> <li>・ばね振り子や単振り子の周期を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることや、その運動のようすについて理解しようとしている。</li> <li>・気体の圧力や体積、温度を変えると、これらの量の間にどのような関係が成りたっているかを理解しようとしている。</li> <li>・気体の分子がもっている質量、速度、運動量などのミクロな量と、気体の圧力などマクロな量がどのような関係にあるか興味関心をもち、理解しようとしている。</li> <li>・気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解しようとしている。</li> </ul>
2学期中間	<p>第3編 波 第1章 波の伝わり方</p> <p>1. 波と媒質の運動</p> <p>2. 正弦波の式</p> <p>3. 波の伝わり方</p> <p>第2章 音の伝わり方</p> <p>1. 音の伝わり方</p> <p>2. 音のドップラー効果</p> <p>第3章 光</p> <p>1. 光の性質</p> <p>2. レンズと鏡</p> <p>3. 光の干渉と回折</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波を表す諸量（振幅、周期、振動数、波長、波の伝わる速さ）の復習</li> <li>・横波、縦波の特徴の復習</li> <li>・正弦波の一般式の導出と <math>y-x</math> 関係、<math>y-t</math> 関係の理解の深化</li> <li>・水面波の干渉を例とした干渉の学習</li> <li>・ホイヘンスの原理の理解</li> <li>・ホイヘンスの原理に関連付けた反射、屈折の法則のおよび回折の理解</li> <li>・音波の反射・屈折・回折・干渉の各現象の学習</li> <li>・ドップラー効果の基本を理解した公式の導出</li> <li>・ドップラー効果は音波だけでなく、水面波、光波等他の波動でも起こる現象であることへの理解</li> <li>・光速</li> <li>・光の分散とスペクトル</li> <li>・散乱と偏光</li> <li>・凸レンズ、凹レンズを通過する光線の作図と写像公式の関係</li> <li>・球面鏡の反射光の作図と写像公式（レンズとの関係）</li> <li>・ヤングの干渉実験と干渉条件の式の理解</li> <li>・回折格子、薄膜干渉の干渉条件の理解</li> </ul>	<p style="text-align: center;">知 技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位相のずれや進行方向の違いなども考慮して、正弦波の式を正しく表すことができる。</li> <li>・水面波の干渉で強めあう点と弱めあう点の条件を理解している。</li> <li>・波の反射・屈折の際に、どのような法則があるかを理解している。</li> <li>・水面波が壁で反射することを確認できている。また、水深が変わる境界面で屈折が起こることを確認できている。</li> <li>・水面波がすき間を通過して回折するようすを確認できている。</li> <li>・音の干渉について、音が強めあう条件と弱めあう条件を理解している。</li> <li>・ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。</li> <li>・光は進んでいくとき、反射、屈折、分散、散乱を行うこと、またその際にどのような法則が成りたっているのかを理解している。</li> <li>・屈折の法則を利用して、ガラスの屈折率を測定できている。</li> <li>・レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。また、写像公式を理解し、式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。</li> <li>・ヤングの実験、回折格子、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。</li> <li>・回折格子を用いて、ナトリウムランプが発する光の波長を求めることができる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">思 判 表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水面を伝わる波の発生条件について説明できる。</li> <li>・正弦波の式を説明することができる。</li> <li>・2つの波源から出た波が、強めあう条件と弱めあう条件を説明することができる。</li> <li>・夜、遠くの音がよく聞こえる理由を説明することができる。</li> <li>・音源が特定の時間だけ音を出す場合のドップラー効果について、観測者が音を観測する時間を考えることができる。</li> <li>・運動している音源から出た音や、観測者が動く場合のドップラー効果がなぜ起きるか説明することができる。</li> <li>・光が2つの媒質の境界面で屈折するようすの図から、どちらの媒質のほうが光が伝わるのが速いか判断できる。</li> <li>・プリズムで白色光が分散する理由を説明することができる。</li> <li>・晴れた日の昼の空が青く、夕焼けが赤く見える理由を説明することができる。</li> <li>・凸レンズの焦点距離の外側に物体（光源）を置くと、どのような像が生じるか説明することができる。</li> <li>・凸面鏡が、平面鏡よりもカーブミラーに適している理由を説明することができる。</li> <li>・ヤングの実験で光が強めあうときの条件を説明することができる。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の変化を考えることができる。</li> <li>・媒質の屈折率と光路長の関係を説明することができる。</li> <li>・薄膜の干渉について説明することができる。</li> </ul>
		主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正弦波を数式で表す方法について理解しようとしている。</li> <li>・音が関係する現象に興味をもち、音の性質と音の伝わり方について理解しようとしている。</li> <li>・音の干渉の実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・身近な現象である音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとしている。</li> <li>・光が関係する現象に興味をもち、光についての基本事項と光の進み方について理解しようとしている。</li> <li>・屈折率の測定の実験、光の散乱の実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・レンズや鏡に興味をもち、それによってどのような像ができるかについて理解しようとしている。</li> <li>・しゃぼん玉や CD・DVD が色づいて見えることについて興味をもち、光の干渉や回折の現象を理解しようとしている。</li> <li>・ヤングの実験や回折格子による光の干渉実験に主体的に取り組んでいる。</li> </ul>
2 学 期 期 末	第4編 電気と磁気 第1章 電場 1. 静電気力  2. 電場  3. 電位  4. 物質と電場  5. コンデンサー  第2章 電流 1. オームの法則  2. 直流回路  3. 半導体  第3章 電流と磁場 1. 磁場  2. 電流のつくる磁場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理基礎の復習と静電誘導と誘電分極の理解</li> <li>・クーロンの法則</li> <li>・電場の定義</li> <li>・電場と電気力線の関係</li> <li>・様々な帯電体を作る電場の理解</li> <li>・電位の定義</li> <li>・電場と電位の関係</li> <li>・等電位面の意味の理解</li> <li>・電場中の導体、不導体内の電場・電位の理解</li> <li>・平行板コンデンサーの蓄える電荷と電位差の関係</li> <li>・電気容量の性質の理解</li> <li>・誘電率・比誘電率の理解</li> <li>・コンデンサーの接続</li> <li>・静電エネルギー</li> <li>・オームの法則の導出</li> <li>・抵抗率の意味と温度依存性の理解</li> <li>・起電力・端子電圧・電池の内部抵抗の意味の理解</li> <li>・電流計・電圧計の構造</li> <li>・キルヒホッフの法則</li> <li>・p型・n型半導体</li> <li>・ダイオードの整流作用とトランジスターの増幅作用</li> <li>・磁場の定義と磁力線</li> <li>・磁力に関するクーロンの法則</li> <li>・直線電流・円形電流・ソレノイドが作る磁場と電流の関係</li> <li>・磁化と磁性体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気量保存の法則やクーロンの法則について理解し、関係式を正しく適用できる。</li> <li>・箔検電器を用いた電荷の移動について正しく理解し、調べることができる。</li> <li>・電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく適用できる。</li> <li>・電場がベクトル量であることを理解し、電場の向きや強さを求めることができる。</li> <li>・電気力線がどのようなものかを理解している。</li> <li>・外部から電気力線を加えても、導体内部には電気力線が入りこめない（静電遮蔽）理由を理解している。</li> <li>・コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。</li> <li>・コンデンサーに誘電体をはさんだとき、電気容量がどのように変わるか理解している。</li> <li>・コンデンサーの直列接続、並列接続の公式を理解している。</li> <li>・コンデンサーの充電、放電のしかたについて正しく理解している。</li> <li>・オームの法則の意味をミクロの視点で理解している。</li> <li>・抵抗率からどのようなものが電流を流しにくいかを理解している。</li> <li>・電圧計、電流計や分流器、倍率器の正しい使用方法についても理解できている。</li> <li>・「起電力」と「電圧降下」の意味を理解しており、キルヒホッフの法則を正しく適用することができる。</li> <li>・電池の起電力や内部抵抗の関係やホイートストンブリッジ、電位差計など未知の抵抗値や起電力を調べる方法を理解している。</li> <li>・電球やコンデンサーなどを含む回路についての電圧、電流の変化について理解している。</li> <li>・p型半導体、n型半導体とは何か、また半導体ダイオードやトランジスターのしくみとはたらきについて理解している。</li> <li>・磁場の定義を通して理解している。</li> <li>・直線電流、円形電流、ソレノイドの電流がつくる磁場を理解している。</li> <li>・フレミングの左手の法則について理解している。</li> <li>・「透磁率」、「比透磁率」、「磁束密度」、「磁束」などの物理量の意味を理解している。</li> <li>・平行電流が及ぼしあう力について、定量的・定性的に理解している。</li> </ul>

<p>3. 電流が磁場から受ける力</p> <p>4. ローレンツ力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレミングの左手の法則</li> <li>・電流が磁場から受ける力の公式</li> <li>・透磁率</li> <li>・磁束密度と磁束</li> </ul> <p>平行電流が及ぼしあう力</p> <p>ローレンツ力の導入</p> <p>一様な磁場中での荷電粒子の運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホール効果</li> <li>・サイクロトロン</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローレンツ力について理解している。また、ローレンツ力を応用した「ホール効果」や「サイクロトロン」についても、これらの原理を理解している。</li> <li>・渦電流の効果を実験で確認できる。</li> <li>・自己誘導や相互誘導などの関係式を適用できる。</li> <li>・コイルと抵抗を含む回路について理解している。</li> <li>・交流電圧の公式を理解している。また、交流電流・交流電圧の実効値の意味を理解している。</li> <li>・交流電流、交流電圧の式を理解している。また、これらには位相差が生じていることを理解している。</li> <li>・コイル・コンデンサーのリアクタンスについて理解している。また、交流回路のインピーダンスについても理解している。</li> <li>・共振回路や電気振動についても理解している。</li> <li>・電磁波はその波長により、ふるまいが大きく異なり、波長により分類できることを理解している。</li> <li>・電磁波も一般的な波と同様、回折と干渉、反射、屈折の性質を示すことを理解している。</li> </ul>
<p>第4章 電磁誘導と電磁波</p> <p>1. 電磁誘導の法則</p> <p>2. 自己誘導と相互誘導</p> <p>3. 交流の発生</p> <p>4. 交流回路</p> <p>5. 電磁波</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電磁誘導の法則（レンツの法則・ファラデーの法則）</li> <li>・磁場中を運動する導線に生じる誘電起電力（ローレンツ力による説明も含む）</li> <li>・電磁誘導とエネルギー</li> <li>・渦電流</li> <li>・自己誘導と相互誘導</li> <li>・コイルが蓄える磁場のエネルギー</li> <li>・交流の発生のしくみと交流電圧の式</li> <li>・交流の実効値</li> <li>・コイルとコンデンサーのリアクタンスと流れる交流電流と電圧の位相差</li> <li>・交流回路のインピーダンス</li> <li>・共振回路と電気振動</li> <li>・電磁波の発生の仕組み</li> <li>・電磁波の種類</li> </ul>	<p>思判表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電荷間の距離とはたらく静電気力との関係を説明できる。</li> <li>・静電誘導及び誘電分極の現象について、それぞれ説明できる。</li> <li>・点電荷のつくる電場の強さを説明できる。</li> <li>・電気力線とは何かを説明することができる。</li> <li>・電場はベクトル量、電位はスカラー量であることを理解し、説明できる。</li> <li>・電気力線と等電位線の関係について説明できる。</li> <li>・電荷間距離と電位の関係のグラフの形状を、電位の性質から考察できる。</li> <li>・電場中に置いた導体内部の電場と電位がどのようになるかを説明できる。</li> <li>・平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明することができる。</li> <li>・平行板コンデンサーに誘電体をはさむことによって電気容量が増える理由について説明することができる。</li> <li>・電圧降下とはどのようなことかを説明できる。</li> <li>・温度と抵抗率の関係について理解し、説明することができる。</li> <li>・分流器や倍率器について説明することができる。</li> <li>・電池の起電力や内部抵抗について説明できる。</li> <li>・半導体のキャリアについて理解し、真性半導体と不純物半導体の性質の違いを判断することができる。</li> <li>・半導体ダイオードの整流作用について説明できる。</li> <li>・直線電流や円形電流がつくる磁場について説明できる。</li> <li>・磁束密度と磁場の関係を説明できる。</li> <li>・ローレンツ力とは何かを説明できる。</li> <li>・磁場中を運動する荷電粒子の運動がどのようになるかを説明できる。</li> <li>・渦電流の各事例について考察、説明ができる。</li> <li>・レンツの法則について説明できる。</li> <li>・電磁誘導の実験において、コイルの巻数、磁極の向き、速さなどを変えたときの誘導電流の変化からファラデーの電磁誘導の法則に関係式の妥当性について考察できる。</li> <li>・自己誘導の現象を言葉で説明できる。</li> <li>・コイルに蓄えられるエネルギーと流れる電流の関係について説明できる。</li> <li>・抵抗、コイル、コンデンサーに流れる交流電流に対する位相差について説明できる。</li> <li>・近い周波数の電磁波では、たがいに影響を受けやすいことを説明できる。</li> <li>・電磁波の発生原理について説明できる。</li> </ul>

			<p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な現象から、静電気の現象に興味・関心をもち、さまざまな静電気現象について理解しようとしている。</li> <li>・箔検電器を用いた実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・電氣的な力が及ぶ空間である電場について、興味・関心を示している。</li> <li>・電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解しようとしている。</li> <li>・身近な静電遮蔽などの事例に興味・関心を示し、理解している。</li> <li>・身近なコンデンサーの利用例について興味・関心をもち、コンデンサーの性質などを理解しようとしている。</li> <li>・電流の流れ方は物質の種類やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味をもっている。</li> <li>・半導体が多く電子機器に利用されていることを知り、半導体に興味や関心をもつことができる。</li> <li>・導線に電流を流すと導線のまわりに磁場ができることに驚きと興味を示し、より深くこのことについて学ぼうとしている。</li> <li>・オーロラなどのローレンツ力の例に興味・関心を示し、ローレンツ力について理解しようとしている。</li> <li>・磁場を変化させると電流が生じることに興味・関心をもち、電磁誘導について理解しようとしている。</li> <li>・相互誘導の現象は変圧器とも関係している。このことから、自己誘導・相互誘導に学習する意欲・関心をもっている。</li> <li>・交流回路では、コイルやコンデンサーで電圧・電流に位相差が生じることに興味をもち、交流回路について理解しようとしている。</li> <li>・生活の中で利用しているさまざまな電磁波に興味をもち、電磁波の性質について理解しようとしている。</li> </ul>
3学期	<p>第5編 原子 第1章 電子と光 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性</p> <p>第2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陰極線の性質</li> <li>・電子の比電荷、電荷、質量とトムソンの実験とミリカンの実験</li> <li>・光電効果</li> <li>・光子量子仮説</li> <li>・X線の発生</li> <li>・X線のスペクトルと最短波長</li> <li>・波動としてのX線とラウエ斑点・ブラッグ反射</li> <li>・光子としてのX線とコンプトン効果</li> <li>・ド・ブロイ波</li> <li>・電子の波動性の実験</li> <li>・原子核の発見とラザフォードの原子模型</li> <li>・水素原子のスペクトル</li> <li>・ボーアの原子模型と水素原子のエネルギー準位</li> <li>・原子核の構造</li> <li>・統一原子質量単位</li> <li>・<math>\alpha</math>線、<math>\beta</math>線、<math>\gamma</math>線の本体と、<math>\alpha</math>崩壊、<math>\beta</math>崩壊</li> <li>・半減期</li> <li>・放射能と放射線の測定単位と放射線の性質と利用</li> <li>・原子核反応と反応の前後で変わらない物理量</li> <li>・質量欠損、結合エネルギーの定義（意味）</li> <li>・結合エネルギーの意味と核融合・核分裂の関係</li> </ul>	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放電（気体放電、真空放電）および陰極線について理解している。</li> <li>・電子の比電荷について、測定原理も含めて理解している。</li> <li>・ミリカンの実験を踏まえた電気素量の導出について理解している。</li> <li>・光子のエネルギーの式を適用できる。</li> <li>・光電効果について理解している。</li> <li>・電子ボルトの単位を適用できる。</li> <li>・X線の性質、特徴について理解している。</li> <li>・X線回折について理解している。</li> <li>・X線のコンプトン効果について理解している。</li> <li>・物質波について理解している。</li> <li>・電子線の回折・干渉について理解している。</li> <li>・ボーア理論（量子条件・振動条件）について理解している。</li> <li>・さまざまなスペクトルを観察できる。</li> <li>・「原子・原子核」を表す記号から、原子核を構成する陽子・中性子の数を求めることができる。</li> <li>・同位体について理解している。また、同位体の存在比を元に原子量を求められることを理解している。</li> <li>・放射性崩壊によって、原子核がどのように変化するか理解している。</li> <li>・半減期について理解している。</li> <li>・放射能と放射線の測定単位の定義を理解している。</li> <li>・核反応を式に表すことができる。</li> <li>・結合エネルギーの定義を理解し、核反応によって放出されるエネルギーを求めることができる。</li> <li>・核分裂反応・核融合反応について理解している。</li> <li>・素粒子の分類について理解している。</li> <li>・さまざまなハドロンがどのクォークで構成されているか調べ、それらの電気量の値をクォークの種類より算出することができる。</li> </ul> <p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子の比電荷と電気素量の値から電子の質量をどのように求めるか説明できる。</li> <li>・光電効果の原理を踏まえて、考え、説明することができる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力発電のしくみ</li> <li>・核融合反応</li> <li>・自然の階層性</li> <li>・素粒子の大まかな分類 (ハドロン, レプトン, ゲージ粒子)</li> <li>・ハドロンの分類 (バリオンと中間子)</li> <li>・ハドロンの構成粒子 (クォーク)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子の波動性について説明できる。</li> <li>・電子のエネルギー準位について理解し, 説明できる。</li> <li>・原子核の構成から同位体どうしの相違点について説明できる。</li> <li>・<math>\alpha</math>線, <math>\beta</math>線, <math>\gamma</math>線の正体や, <math>\alpha</math>崩壊, <math>\beta</math>崩壊のしくみを説明できる。</li> <li>・核反応の前後で原子核の質量の和が減少するとき, その質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして解放されることを定量的に説明できる。</li> <li>・ハドロンがどのような粒子で構成されているか, また, どのような力がはたらいているかを説明できる。</li> </ul>
			<p style="text-align: center;">主 体 的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子がどのようにして発見されたのか, また電子の電荷や質量はどのようにして測定されたのかに興味をもち, 電子の性質について理解しようとしている。</li> <li>・光が粒子性をもつことに興味・関心を示し, 光電効果の原理などを理解しようとしている。</li> <li>・健康診断の検査などで使われている X 線とはどのようなものであるかに関心を示し, 理解しようとしている。</li> <li>・電子顕微鏡は電子が波動としてふるまう性質を応用したものである。この, 一見すると相反する波動性と粒子性をあわせもつ二重性について, 興味・関心を示し, 理解しようとしている。</li> <li>・原子と原子核の大きさの差から原子に興味・関心を示し, 原子の構造とエネルギー準位についても理解しようとしている。</li> <li>・さまざまなスペクトルを観察に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・「放射線」と「放射性物質」ではどのように意味が異なるかに, 興味・関心を示し, 放射線とその性質について理解しようとしている。</li> <li>・放射線の観察に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・核エネルギーとは何か, どうしてあのような莫大な量のエネルギーが取り出せるのかに, 興味・関心を示し, 理解しようとしている。</li> <li>・物質の最小単位は何か, また自然界にはどのような力が存在するのか, などに興味・関心を示し, 理解しようとしている。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	理科	科目	地学	学年	3	単位数	3
使用教科書 副教材		啓林館 地学 改訂版					

学習の到達目標	地学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物、授業や実験への取り組み、等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の観測</li> <li>地震波で探る地球の内部</li> <li>熱で探る地球の内部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の内部の構造を知るための観測方法を理解させる。</li> <li>地震波の伝わり方や走時曲線に基づいて、地球の内部構造（地殻・マントル・核などの固体地球の層構造）や、地球内部を構成する物質について理解させる。</li> <li>放射性同位体の自然崩壊による熱や、高温の核による地球内部の熱源について理解している。</li> </ul>	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の内部構造の観測方法を理解している。</li> <li>地震波の伝わり方や走時曲線に基づいて、地球の内部構造（地殻・マントル・核などの固体地球の層構造）や、地球内部を構成する物質について理解している。</li> <li>放射性同位体の自然崩壊による熱や、高温の核による地球内部の熱源について理解している。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の内部構造を知るための観測方法について考えることができる。</li> <li>走時曲線を読み取り地殻の厚さや震央距離について考えることができる。</li> <li>地下増温率の計算ができる。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の形状や内部構造に関心をもち、地球の形状や内部構造について、観察や実習を通して調べようとする。</li> <li>走時曲線を読み取り地殻の厚さや震央距離について考えることができる。</li> <li>地下増温率の計算ができる。</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球表面を覆うプレート</li> <li>地球観の変遷</li> <li>プレートテクトニクスとマントルの動き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球表面を覆うプレートの構造と分布、境界と海底の大地形との関係を理解させる。</li> <li>地球観が大陸移動説から海洋拡大説、そしてプレートテクトニクスへと段階的に発展したことを理解させる。</li> <li>プレートテクトニクスやマントルの動き、地震波トモグラフィーについて理解させる。</li> </ul>	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球表面を覆うプレートの構造と分布、境界と海底の大地形との関係を理解している。</li> <li>大陸移動説から海洋底拡大説、そしてプレートテクトニクスへと段階的に地球観が発展したことを、古地磁気などの証拠と関連づけて理解している。</li> <li>プレートテクトニクスやマントルの動き、地震波トモグラフィーを理解している。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球表面を覆うプレートの構造と分布、境界と海底の大地形との関係を考えることができる。</li> <li>大陸移動説から海洋拡大説、そしてプレートテクトニクスへと段階的に発展したが、地球観の変化を古地磁気との関連を考慮することができる。</li> <li>プレートテクトニクスやマントルの動き、地震波トモグラフィーを考慮することができる。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレートテクトニクスや地球観の変遷に関心をもち、プレートテクトニクスやその成立過程について調べようとする。</li> <li>地球観が、大陸移動説から海洋拡大説、そしてプレートテクトニクスへと段階的に発展したことや、その証拠としての古地磁気などを考えることができる。</li> <li>プレートテクトニクスやマントルの動き、地震波トモグラフィーについて考えることができる。</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震</li> <li>地殻変動</li> <li>火山と火星活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の分布や発震機構、プレート境界地震、プレート内地震について理解させる。</li> <li>地震に伴う急激な地殻変動や、ゆっくりした地殻変動、地殻変動でできた地形について理解させる。</li> <li>火山の分布やマグマの発生、火成岩の種類とマグマの分化について理解させる。</li> </ul>	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の分布や発震機構、プレート境界地震、プレート内地震を理解している。</li> <li>地震に伴う急激な地殻変動や、ゆっくりした地殻変動、地殻変動でできた地形を理解している。</li> <li>山の分布やマグマの発生や、火成岩の種類とマグマの分化を理解している。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の初動の分布と発震機構の関係について考えることができる。</li> <li>地震に伴う急激な地殻変動や、ゆっくりした地殻変動、地殻変動でできた地形について考えることができる。</li> <li>マグマの発生や、火成岩の種類とマグマの分化について考えることができる。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で扱えなかった分野で最も学習したい部分を各自で設定しレポートを作成する。</li> <li>地球活動の1つである地震に関心をもち、地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動や、火成活動を調べようとする。</li> <li>地震や火山噴火に伴う急激な地殻変動や、ゆっくりした地殻変動、地殻変動でできた地形について考えることができる。</li> <li>マグマの発生や、火成岩の種類とマグマの分化について考えることができる。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	リベラル アーツ	科目	防災	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		なし					

学習の到達目標	<p>様々な自然災害によって発生する被害をできる限り小さくできるように、自然現象を理解し、過去に発生した災害を学びながら科学的な見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、様々な自然現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然災害を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	防災と減災に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査、実習を行うことで、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査・実習・課題において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物、授業や実験への取り組み、等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	災害と防災 災害と自然現象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害とは何か、防災とは何か</li> <li>・地図の見方、地震、火山噴火、気象災害などの基本</li> </ul>	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象（地震・火山噴火・気象現象）と災害の違いを理解させ、基本的な知識を身につけさせる。発生のメカニズムを知ることによって災害に繋がるか否かの判断ができるようにする。</li> <li>・学校の周りを歩くことで地図と地形の見方を学ぶとともに、植物や動物の紹介をしていく</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象が災害になるときに</li> <li>・地形から考えられる災害の種類を想定し、避難や備蓄について考える。</li> <li>・市の防災倉庫を解放してもらい、備蓄や備えがどのようになっているかを知る。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象としての地震、火山噴火、気象現象を正しく理解し、闇雲に恐れるのではなく「正しく恐れる」ために、学期ごとに各自がテーマを設定して重点的に取り組む。</li> <li>・学校の周囲の地形や災害の危険性を知ること、自分の居住している地区に当てはめることで近所で発生する災害を予測し対応を考える。</li> </ul>
2 学期	災害への備えと災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の防災計画</li> <li>・地域の防災計画</li> <li>・自治体や国の防災計画</li> </ul>	知技	<p>災害の歴史と国、都道府県、市町村の対応について学ぶ。防災の根拠となる法体系や、それによって都道府県、市町村、さらには地域がどのように災害に対応していくのか、法律だけでなく被災した時に「被災者＝援助を受ける者」ではなく、自治体と被災者が対等な立場で避難場所や避難所で行動できるように意識を持たせる。</p>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に必要な「自助・共助・公助」の考え、特に「自助」が最も大切で、そのとき自分で何が出来るか、を具体的に考えさせる。</li> <li>・災害が発生すると多くの人が期待するのが「公助」だが、災害が深刻であればあるほど「公助」は期待ができない。「公助」が入るまでの間に「共助」と「自助」で、1週間乗り切るためにどうするか、を具体的に計画させる。</li> </ul>
			主体的	<p>「自助」に役立つのは「個人の防災計画」で、最低3日、理想的には1週間、乗り切るための計画を立てさせる中で、近所（地域）の役割（共助）についても考えさせる。基本的に公的機関の援助はないものと考えて、1週間は近所（地域）で生活していくための計画を立てさせる。その際、生活弱者（高齢者や身体障害者、妊婦など）の把握と対応方法も必要になってくる。</p>
3 学期	地域と我が家の防災計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き延びるための準備と対策をレポート作成</li> <li>・「避難所運営ゲーム」の実施</li> </ul>	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの作成を通して、学んだことを基に生き残るためにどのような準備と対策を立てていくかを具体化させる。</li> </ul>
			思判表	<p>地震災害、気象災害、火山災害、大規模火災等、災害によって備えと対応は違ってくる。それぞれの災害に応じた計画になっているか、生活再建はどうするか、が記述されているかを評価の観点とする。</p>
			主体的	<p>仕上げとして、「共助」を具体化した「避難所運営ゲーム」を用いて、想定外や迷惑行為、物資の不足、旅行者や外国人などの地元以外の避難者対応、避難者の不平不満が次々に出る中で、自分たちが避難所の運営者としてどう活動していくか、をシュミレーションして将来、災害避難場所で運営側に立ったときを想定して訓練を実施する。</p>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅢ	学年	3	単位数	4
使用教科書 副教材		Grove English Communication Ⅲ					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させたり、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>エ 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。</p> <p>オ 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解し、これらの知識を、特に話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて運用することができる。	外国語で読んだり聞いたりしたことについて、概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを、論理性に注意して表現したり、伝え合ったりすることができる。	外国語でのコミュニケーションに関心を持ち、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、情報や自分の考え・気持ちなどを、間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ることができる。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 小テスト 等	定期考査 等	授業中の活動 課題 等

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	<p>“LESSON 1 Fashion Revolution: Who Made Your Clothes?”</p> <p>“LESSON 2 The Custom of Food Samples ”</p> <p>“LESSON 11 A Song for the Queen”</p> <p>“LESSON 12 Olympic Sports Come and Go”</p>	<p>・Fashion Revolution の活動について、パラグラフどうしのつながりを意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。自分の着ている衣服がどこの国でどう作られているかを考え、衣料を作る労働についての認識を高める。</p> <p>・食品サンプルについて、5W1H の情報を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。日本の文化的産物でもある食品サンプルの効用について理解し、その活用が広がる可能性について考える。</p> <p>・シルビア王妃と ABBA の歌との関わりについて、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。ABBA の歌が流れるパーティーの様子を想像し、その時の王妃の心情について考える。</p> <p>・過去にオリンピックから除外された競技種目について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。除外された競技種目から、オリンピックが目指そうとしていることについて考える。</p>	知 技	文法事項を理解している。
	<p>“LESSON 3 A Boy Who Inspired the World”</p> <p>“LESSON 4 Socotra: A Unique Island”</p> <p>“LESSON 13 Audrey Tang: Not Just an IT Expert”</p> <p>“LESSON 18 NASA’ s Hidden Treasures: Human Computers”</p>	<p>・大学生がファストフード店の窓から見た光景について、時間的順序を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。窓明かりで勉強する貧しい少年の環境や背景を読み取り、夢の実現のための努力について考える。</p> <p>・ソコトラ島について、言い換え表現や代名詞の内容を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。何がソコトラ島を特異な場所にしているのかを読み取り、その意義について理解する。</p> <p>・オードリー・タン氏の考えや行動について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。タン氏の行動や生き方の根底にある、信念や信条について考える。</p> <p>・黒人女性の社会参加が困難だった時代に NASA で活躍した 3 人の女性の職務と経歴について、話題の概要や要点をとらえる。時代背景や出来事などをふまえて、彼女たちが NASA でなぜ次世代の女性たちのために道を切り開くことができたのかを考える。</p>	思 判 表	必要な情報を読み取り、文章の概要や要点、詳細を把握している。
	<p>“LESSON 5 No Meat on Monday”</p> <p>“LESSON 6 Bamboo Trains”</p> <p>“LESSON 14 Earth Hour”</p> <p>“LESSON 19 Why Can’ t You See It?”</p>	<p>・Meat Free Monday の活動内容と背景について、各パラグラフの役割を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。Meat Free Monday の目的を読み取り、畜産業が環境に与える影響について理解する。</p> <p>・バンブートレインについて、因果関係を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。バンブートレイン誕生と歩み、そして現状を理解し、その将来像について考える。</p> <p>・Earth Hour の活動とその広がりや、地球温暖化に対応する EV の推進について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。Earth Hour の意義を理解し、地球環境の保全について考える。</p> <p>・Gorillas in Our Midst の実験と注意の錯覚について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。実験の内容と結果を理解し、人はどういう時に情報を見落とすのについて考える。</p>	知 技	文法事項を理解している。
	<p>“LESSON 7 Holiday Weight Gain/Holiday Weight Gain”</p> <p>“LESSON 8 A Feathery Find in Amber”</p> <p>“LESSON 15 Making a Bright Future Through Chocolate”</p> <p>“LESSON 20 The Svalbard Global Seed Vault”</p>	<p>・祝祭休日期間の体重増加について、比較されている内容を整理しながら、話題の概要や要点をとらえる。休日期間の体重増加についての研究結果を理解し、意味するところを考える。</p> <p>・琥珀の中の恐竜の羽毛について、事実と意見の違いを意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。琥珀の中の恐竜の羽毛によって明らかになることを理解する。</p> <p>・チョコレートの原料産地と児童労働について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。大量に消費されるチョコレートの背景にある問題を理解し、その解決について考える。</p> <p>・スバルバル諸島にある世界的な種子貯蔵庫について、話題の概要や要点をとらえる。種子貯蔵庫の目的と意義を理解し、必要となる世界の環境や情勢について考える。</p>	思 判 表	必要な情報を読み取り、文章の概要や要点、詳細を把握している。
2 学期	<p>“LESSON 9 Bed Nets for African Children”</p> <p>“LESSON 10 The Way You Look at a Problem”</p>	<p>蚊帳によるマラリア対策について、数値に関する情報に注意しパラグラフどうしのつながりを意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。現在も深刻な問題であるマラリアに対して、なぜ蚊帳が重要なのかを理解する。</p> <p>・4 枚カード問題と確証バイアスについて、仮定の表現に注意して論点を整理しながら、話題の概要や要点をとらえる。確証バイアス</p>	知 技	文法事項を理解している。
	<p>“LESSON 5 No Meat on Monday”</p> <p>“LESSON 6 Bamboo Trains”</p> <p>“LESSON 14 Earth Hour”</p> <p>“LESSON 19 Why Can’ t You See It?”</p>	<p>・Meat Free Monday の活動内容と背景について、各パラグラフの役割を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。Meat Free Monday の目的を読み取り、畜産業が環境に与える影響について理解する。</p> <p>・バンブートレインについて、因果関係を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。バンブートレイン誕生と歩み、そして現状を理解し、その将来像について考える。</p> <p>・Earth Hour の活動とその広がりや、地球温暖化に対応する EV の推進について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。Earth Hour の意義を理解し、地球環境の保全について考える。</p> <p>・Gorillas in Our Midst の実験と注意の錯覚について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。実験の内容と結果を理解し、人はどういう時に情報を見落とすのについて考える。</p>	主 体 的	必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。
3 学期	<p>“LESSON 9 Bed Nets for African Children”</p> <p>“LESSON 10 The Way You Look at a Problem”</p>	<p>蚊帳によるマラリア対策について、数値に関する情報に注意しパラグラフどうしのつながりを意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。現在も深刻な問題であるマラリアに対して、なぜ蚊帳が重要なのかを理解する。</p> <p>・4 枚カード問題と確証バイアスについて、仮定の表現に注意して論点を整理しながら、話題の概要や要点をとらえる。確証バイアス</p>	知 技	文法事項を理解している。

<p>”LESSON 16 Spot Fake News” ”LESSON 17 The Sagrada Familia: A Spiritual Wonder”</p>	<p>とはどういうものかを理解し、実際の例について考える。 ・ネットのフェイクニュースとメディアリテラシーの重要性について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。フェイクニュースの現状と問題点を理解し、メディアリテラシーの重要性について考える。 ・サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。サグラダ・ファミリアの魅力と建築家アントニ・ガウディの設計思想、その完成に向けた歩みについて理解する。</p>	<p>思 判 表</p>	<p>必要な情報を読み取り、文章の概要や要点、詳細を把握している。</p>
		<p>主 体 的</p>	<p>必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。</p>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	英語	科目	論理表現Ⅲ	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		My Way Ⅲ／My Way Workbook Ⅲ					

学習の到達目標	言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既知の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 小テスト 等	定期考査 等	授業中の活動 課題 等

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期 中間	Lesson 1 Survey Results	[主な活動] 発表  [主な言語材料] 動詞の種類	知 技	表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。

		<p>[主な言語の働き] 説明、報告、提案</p> <p>[主な言語の使用場面] 学校生活、発表</p>	<p>思判表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
1 学期 中間	<p>Lesson 2 Writing an Email</p>	<p>[主な活動] 書く</p> <p>[主な言語材料] 時制</p> <p>[主な言語の働き] 説明、質問、依頼</p> <p>[主な言語の使用場面] 社会生活、電子メールのやり取り</p>	<p>知技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。</p>
			<p>思判表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
1 学期 期末	<p>Lesson 3 Writing a Blog</p>	<p>[主な活動] 書く</p> <p>[主な言語材料] 助動詞</p> <p>[主な言語の働き] 報告、説明、提案</p> <p>[主な言語の使用場面] 社会生活、ブログへの書き込み</p>	<p>知技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。</p>
			<p>思判表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
1 学期 期末	<p>Lesson 4 Describing Activities</p>	<p>[主な活動] 発表</p> <p>[主な言語材料] 不定詞、動名詞</p>	<p>知技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。</p>

		<p>[主な言語の働き] 紹介、描写、説明</p> <p>[主な言語の使用場面] 社会生活、地域活動</p>	<p>思判表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
2 学 期 中 間	Lesson 5 Suggesting What to Buy	<p>[主な活動] 発表</p> <p>[主な言語材料] 分詞、分詞構文</p> <p>[主な言語の働き] 推薦、説明、理由を述べる</p> <p>[主な言語の使用場面] 学校生活、学校での活動</p>	<p>知技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使えている。</p>
			<p>思判表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
2 学 期 中 間	Lesson 6 Making a Proposal	<p>[主な活動] 発表</p> <p>[主な言語材料] 比較</p> <p>[主な言語の働き] 提案、説明、主張</p> <p>[主な言語の使用場面] 社会生活、地域活動</p>	<p>知技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使えている。</p>
			<p>思判表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
2 学 期 期 末	Lesson 7 Making a Speech	<p>[主な活動] 発表</p> <p>[主な言語材料] 関係詞</p>	<p>知技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使えている。</p>

		<p>[主な言語の働き] 事実・情報伝達、提案、説明</p> <p>[主な言語の使用場面] 学校生活、スピーチ</p>	<p>思判表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
2 学 期 期 末	Lesson 8 Writing an Invitation	<p>[主な活動] 書く</p>	<p>知 技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。</p>
		<p>[主な言語材料] 仮定法</p>		
		<p>[主な言語の働き] 誘う、事実・情報伝達、説明</p> <p>[主な言語の使用場面] 社会生活、メッセージ</p>		
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
学 年 末	Lesson 9 Suggesting a Solution	<p>[主な活動] 書く</p>	<p>知 技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。</p>
		<p>[主な言語材料] 名詞、代名詞</p>		
		<p>[主な言語の働き] 提案、事実・情報伝達、説明</p> <p>[主な言語の使用場面] 社会生活、発表</p>		
			<p>主体的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>
学 年 末	Lesson 10 Talking about the Future	<p>[主な活動] 発表</p>	<p>知 技</p>	<p>表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。</p>
		<p>[主な言語材料] 前置詞、接続詞</p>		

	<p>[主な言語の働き] 描写、説明、推論</p> <p>[主な言語の使用場面] 学校生活、発表</p>	<p>思 判 表</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。</p>
		<p>主 体 的</p>	<p>多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。</p>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	英語	科目	英語総合	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		Seek next 4					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させたり、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>エ 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。</p> <p>オ 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解し、これらの知識を、特に話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて運用することができる。	外国語で読んだり聞いたりしたことについて、概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを、論理性に注意して表現したり、伝え合ったりすることができる。	外国語でのコミュニケーションに関心を持ち、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、情報や自分の考え・気持ちなどを、間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ることができる。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 等	定期考査 等	授業中の活動 課題 等

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学 期	Lesson 1, 2, 3	共通テスト、英検、GTECに似た問題形式のリスニングと速読、SDG sに関する長文読解	知 技	文法事項を理解している。
	Lesson 4, 5, 6, 7	共通テスト、英検、GTECに似た問題形式のリスニングと速読、SDG sに関する長文読解	思 判 表	必要な情報を読み取り、文章の概要や要点、詳細を把握している。
			主 体 的	必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。
2 学 期	Lesson 8, 9, 10, 11	共通テスト、英検、GTECに似た問題形式のリスニングと速読、SDG sに関する長文読解	知 技	文法事項を理解している。
	Lesson 12, 13, 14, 15	共通テスト、英検、GTECに似た問題形式のリスニングと速読、SDG sに関する長文読解	思 判 表	必要な情報を読み取り、文章の概要や要点、詳細を把握している。
			主 体 的	必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。
3 学 期	総合問題演習	共通テスト、英検、GTECに似た問題形式のリスニングと速読、SDG sに関する長文読解	知 技	文法事項を理解している。
			思 判 表	必要な情報を読み取り、文章の概要や要点、詳細を把握している。
			主 体 的	必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	保健体育	科目	体育	学年	3	単位数	3
使用教科書 副教材							

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p>	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>授業において、 知識・技能テストを設定</p>	<p>授業において、 思考・判断 表現を問う課題を設定</p>	<p>授業への取り組みを観察して 評価をする</p>
<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>	<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>	<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>

教科担当からの 補足・連絡	<p>施設の状況により実施種目に変更が生じる場合があります。</p>
------------------	------------------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	1. 体づくり運動  2. 陸上競技	50m 男子1500m 女子1000m  投擲 跳躍	知技 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活への取り入れ方には、自己のねらいに応じた様々な運動の計画などがあることについて言ったり書いたりしている。</li> <li>・課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、記録会などを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて言ったり書いたりしている。</li> </ul>
			思 判 表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</li> <li>・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて仲間とともに陸上競技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</li> </ul>
			主 体 的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。</li> <li>・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</li> </ul>
2 学期・ 3 学期	3. 選択	バスケットボール バレーボール ダンス ソフトボール テニス ラグビー	知 技 <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。(サッカー、ラグビー、ハンドボール)</li> <li>・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。(バレー)</li> <li>・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。(バスケ)</li> <li>・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。(バドミントン・テニス・卓球)</li> <li>・状況に応じたバット操作や安定ボール操作と状況に応じた守備によってゲームを展開することができる。(ソフトボール)</li> <li>・課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、交流や発表などを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて言ったり書いたりしている(ダンス)</li> <li>・競技会や記録会で、競技のルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて言ったり書いたりしている(陸上競技)</li> <li>・試合で、競技のルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて言ったり書いたりしている(剣道)</li> </ul>
	4. 選択	バドミントン サッカー 卓球 ハンドボール 陸上競技 剣道	

			<p>思 判 表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</li> <li>・陸上競技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</li> <li>・武道の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</li> <li>・ダンスの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>
			<p>主 体 的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。</li> <li>・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</li> <li>・一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとしている。</li> <li>・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</li> </ul>

状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	保健体育	科目	スポーツⅡ	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材							

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p>	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>授業において、 知識・技能テストを設定</p>	<p>授業において、 思考・判断 表現を問う課題を設定</p>	<p>授業への取り組みを観察して 評価をする</p>
<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>	<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>	<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>

教科担当からの 補足・連絡	<p>今年度は施設の関係上、器械運動、陸上競技を実施します。</p>
------------------	------------------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期	器械運動	マット運動	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を他者と学び合う際の動きや改善のポイントの示し方について、言ったり書いたりしている。</li> <li>・発表会や競技会などの目的に応じた企画や運営をすることができる。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループやバディでの学習では、状況に応じて自己や仲間の役割を提案している。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と話し合う場面で合意形成に貢献しようとしている。</li> </ul>
2学期	陸上競技	短距離・リレー ハードル走 走り高跳び 走り幅跳び 砲丸投げ やり投げ	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な環境下で実践する際の健康・安全の確保の仕方やマナーについて、言ったり書いたりしている。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えている。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び練習の仕方やルールの修正などを大切にしようとしている。</li> </ul>
3学期	陸上競技	短距離・リレー ハードル走 走り高跳び 走り幅跳び 砲丸投げ やり投げ	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会や競技会における参加者の募集、運営方法や審判方法、初歩的な指導法について、言ったり書いたりしている。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの推進及び発展に向けた視点から自他の「する、みる、支える、知る」などの多様な将来の関わり方について、自他の考えたことを踏まえ、理由を添えて説明している。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	芸術	科目	World Music	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材							

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の音楽を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。</li> <li>音や音楽が醸し出す良さや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性をさらに養う。</li> <li>音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力をさらに伸ばす。</li> <li>音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
(1) 曲想と音楽の構造や、文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 (2) 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
音楽表現における「技術」は、リズム・音程の正確さ、音色等の的確さを実技テストを実施し評価。	音楽表現における「表現」は、その音楽の歌詞や背景を基に、どのようにフレーズを表現するか、実技テストを実施し評価	授業での活動状況。グループ活動での発言や、自分の役割の理解。活動への積極性を評価。

教科担当からの 補足・連絡	2学期にリコーダーを使います。ソプラノ・アルトどちらか用意してください。
------------------	--------------------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	<歌唱>	○島唄 ○春よ来い ○時代  ○コールユーブンゲン	知 技	歌唱における「リズム」「音程」が正確であるか。 正しい発声、あるいは元気な声で歌っているか 近現代の音楽と、歴史の関係を理解できたか
	<理論>	○近現代の音楽とその 時代	思 判 表	歌唱における歌詞や時代背景を理解し表現しようとしているか。
	<鑑賞>	○ドビュッシー ラヴェル ストラヴィンスキ ー	主 体 的	音楽講義・鑑賞において主体的に参加できているか。
2 学期	<歌唱>	○コールユーブンゲン	知 技	歌唱における「リズム」「音程」が正確であるか。 器楽演奏における、楽器特性の理解度、および技術力。
	<器楽>	○リコーダー ○三線	思 判 表	器楽演奏における音楽的な演奏を表現しようとしているか。
	<鑑賞>	○戦場のピアニスト ○ショパン・ロマン派	主 体 的	音楽講義・鑑賞において主体的に参加できているか。
3 学期	<合唱>	○録音	知 技	合唱の精度
			思 判 表	音楽の歌い方
			主 体 的	合唱において主体的に参加できているか。

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	芸術	科目	漢字の書	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		教科書…使用せず 副教材…「ペン習字の基礎」(教育図書)					

学習の到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
学期末に授業内で実施する筆記試験において、【知識・技能】に関する問題を出題し、評価する。	毎時間の授業で提出した作品を学期末に「作品綴」とし、それを基に【思考・判断・表現】に関して評価する。	毎時間の「自己評価シート」や観察によって「試行錯誤を繰り返す粘り強く学ぶ様子」等を評価する。

教科担当からの 補足・連絡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材費は、学年費から支出します。2,300円程度です。</li> <li>・硬筆テキスト「ペン習字の基礎」1冊に取り組みます。</li> <li>・実技科目なので、休まないで授業に臨むようにしてください。</li> <li>・書道道具一式、筆記用具を忘れずに持参してください。</li> <li>・作品は毎時間提出してもらいます。試行錯誤を繰り返し、粘り強く学ぶ様子を評価します。</li> </ul>
------------------	---

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	楷書の学習 元頭儁墓誌銘、張即之の書 鄭道昭の書、小楷の書  埼玉県硬筆展課題  行書・草書の学習 李柏尺牘稿、喪乱帖 赤壁賦、伊都内親王願文 屏風土代	楷書を構成するさまざまな要素、楷書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。 楷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における楷書の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。 行書を構成するさまざまな要素、行書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。 草書を構成するさまざまな要素、草書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解を深めている。</li> <li>楷書や行書及び草書の古典の表現の技能を身につけている。</li> <li>楷書や行書及び草書の古典の特質と歴史について理解を深めている。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>楷書や行書及び草書の作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえている。</li> <li>楷書や行書及び草書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、表現している。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に楷書と行書及び草書の漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</li> <li>提出する作品の制作において、試行錯誤を繰り返し、主体的に粘り強く学ぼうとしている。</li> </ul>
2 学期	刻字の学習 セラミックボードに作品制作 好きな文字(漢字)を書く。 彫刻刀を使い、薬研彫りで刻る。 アクリル絵の具で着色する。  隷書の学習 張遷碑  篆書の学習 甲骨文、金文、泰山刻石	刻字の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。 隷書を構成するさまざまな要素、隷書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。 篆書を構成するさまざまな要素、篆書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。 隷書、篆書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における草書、隷書、篆書の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>刻字の基本的な用刀や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。</li> <li>線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解を深めている。</li> <li>隷書及び篆書の古典の表現の技能を身につけている。</li> <li>隷書及び篆書の古典の特質と歴史について理解を深めている。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>刻字作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わってとらえている。</li> <li>草書や隷書及び篆書の作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえている。</li> <li>草書や隷書及び篆書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、表現している。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>刻字制作に創意工夫し、主体的に取り組んでいる。</li> <li>主体的に隷書及び篆書の漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</li> <li>提出する作品の制作において、試行錯誤を繰り返し、主体的に粘り強く学ぼうとしている。</li> </ul>
3 学期	漢字の書の制作 色紙に漢字作品制作 好きな文字(漢字)を書く。	用具・用材の特徴と表現効果の関わりについて理解する。 線質・字形・構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 意図に基づいた表現について構想し工夫する。	知技	<ul style="list-style-type: none"> <li>線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解を深めている。</li> <li>漢字古典の臨書学習を通じた表現の技能を身につけている。</li> <li>漢字古典の特質と歴史について理解を深めている。</li> </ul>
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> <li>色紙作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わってとらえている。</li> <li>漢字の書の作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって表現している。</li> <li>漢字の書の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、表現している。</li> </ul>
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> <li>色紙制作に創意工夫し、主体的に取り組んでいる。</li> <li>主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</li> <li>提出する作品の制作において、試行錯誤を繰り返し、主体的に粘り強く学ぼうとしている。</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

# 令和8年度 学習評価計画及び評価規準

## 埼玉県立所沢西高等学校

教科	芸術	科目	美術 総合研究	学年	3	単位数	2
使用教科書 副教材		なし					

学習の到達目標	自己の興味・関心に基づき、美術に関する知識・理解を深め、発想・構想をもとに形を作り出し、自ら調整・修正ができるようになる力をつける
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート・ノートの考察、自己の課題をにおいて、探究をしているか</li> <li>技法や材料の特性の理解し制作しているか</li> <li>ワークシート、アイデアスケッチ、ノート、課題等で評価する</li> </ul> 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート・ノートの考察、自己の課題をにおいて、探究をしているか</li> <li>技法や材料の特性の理解し制作しているか</li> <li>ワークシート、アイデアスケッチ、ノート、課題等で評価する</li> </ul> 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している	主に授業での活動状況、出欠、制作準備、提出物、作品鑑賞、振り返りで「粘り強く学ぶ力」と「自らの学びを調整する力」の観点で評価をする。 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している

教科担当からの 補足・連絡	美術は知識・技能・思考・判断・表現・主体的な取り組みを通して作品を制作し、授業全体を通して総合的に評価します。
------------------	---

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人探究</li> <li>課題設定</li> <li>制作(試作)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の興味関心を深め、課題を決定する</li> <li>本制作へ向け試作を行う</li> </ul>	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の興味関心を深め課題を設定しているか</li> <li>課題に向け自主的に調べ、ノートに記載しているか</li> <li>より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか</li> <li>制作物を振り返りまとめを行っているか</li> </ul>
			思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の興味関心を深め課題を設定しているか</li> <li>課題に向け自主的に調べ、ノートに記載しているか</li> <li>より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか</li> <li>制作物を振り返りまとめを行っているか</li> </ul>
			主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に制作しているか(出欠含む)</li> <li>丁寧に制作しているか</li> <li>必要な道具を準備しているか</li> <li>課題に向け自主的に調べ、ノートに記載しているか</li> <li>鑑賞、振り返りを通して自らの学びを調整しているか</li> <li>より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>本制作</li> <li>中間鑑賞</li> <li>本制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期で設定した課題の試作を通して本制作を行う</li> <li>制作途中の鑑賞を通して自己を振り返る</li> <li>中間鑑賞を通して制作を進める</li> </ul>	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>試作を通して本制作を行っているか</li> <li>制作に向け自主的に調べ、ノートに記載しているか</li> <li>より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか</li> <li>制作物を振り返り、まとめを行っているか</li> </ul>
			思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>試作を通して本制作を行っているか</li> <li>制作に向け自主的に調べ、ノートに記載しているか</li> <li>より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか</li> <li>制作物を振り返り、まとめを行っているか</li> </ul>
			主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に制作しているか(出欠含む)</li> <li>必要な道具を準備しているか</li> <li>課題に向け自主的に調べ、ノートに記載しているか</li> <li>グループ活動でコミュニケーションをしながら思考を深めているか</li> <li>鑑賞、振り返りを通して自らの学びを調整しているか</li> <li>より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞</li> <li>発表</li> <li>全体振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成作品について自己の言葉で発表する</li> <li>他者の作品の鑑賞</li> <li>制作全体の振り返り、まとめ</li> </ul>	知 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の作品について説明し、客観的に評価できているか</li> <li>他者の作品の鑑賞を通して新しい発見をしているか</li> <li>振り返りの質・量ともに十分か</li> </ul>
			思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の作品について説明し、客観的に評価できているか</li> <li>他者の作品の鑑賞を通して新しい発見をしているか</li> <li>振り返りの質・量ともに十分か</li> </ul>
			主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に制作しているか(出欠含む)</li> <li>自己の作品について説明し、客観的に評価できているか</li> <li>他者の作品の鑑賞を通して新しい発見をしているか</li> <li>振り返りの質・量ともに十分か</li> </ul>

※状況により変更が発生する場合があります。

